Annual Report 2013-2014
Health Science Center
National University Corporation
Oita University

国立大学法人 大分大学
保健管理センター年報
第8号　2013・2014年度

SALUD

国立大学法人
大分大学保健管理センター

OITA UNIVERSITY

表紙説明

表題の “Salud” は、サルーと発音する。

スペイン語で「健康、Health」という意味である。その他に幸福、福祉などの意味もあり、乾杯の時もこの言葉を使う。スペイン語圏の国では頻繁に使われる言葉である。平成７年度からの年報標語としてこの言葉を使用している。

巻頭言

大分大学保健管理センター
所長　工　藤　欣　邦

2014年６月より大分大学保健管理センター所長を務めさせて頂いております工藤と申します。私は、2012年４月よりセンター業務に携わっておりますが、今後も学生・教職員の皆様方の健康管理に全力で努めてまいりますのでどうぞよろしくお願い致します。

本年報は2013～2014年度のまとめとなります。保健管理センターの業務は多岐に渡りますが、「禁煙推進」と「学生の健診受診率向上」に関しては、2014年度よりこれまで以上に力を注いでいます。前者については、同年９月から学長裁量経費により学生・教職員の皆様方に無償で禁煙補助薬を提供できるようになり、この１年間でのべ65名の方が来所し、禁煙達成のために努力されています。今後、教育啓発活動についても、これまで以上に行っていきたいと考えています。後者については、近年、大学のグローバル化により世界中から多くの留学生が集まってきますが、一方で輸入感染症対策が極めて重要となってきます。2015年度春の健康診断では、留学生の健診率100％を達成することができました。しかし、全体としては学部２～３年生の受診率が悪いなど改善すべき点が少なくありません。ライフスタイルの変化にともなう生活習慣病の若年化を背景とした学生の肥満、メタボリックシンドローム対策も重要となります。感染症対策も含めこれらの問題は、健康診断以外に早期の対策を講じることが困難なため、今後、受診率を更に高めることが重要な課題であると考えています。さらに、医療系学生における感染症対策としてのワクチン接種についても、時代の変化に相応した修正が必要となってきます。

労働安全衛生法の改正により、今後、産業医としての業務も増えることが予想されますが、スタッフ一丸となって乗り切っていきたいと思います。

2015年10月

目　　次

巻　頭　言

A．診察・相談日程表・センタースタッフ …… 1

B．年間主要業務

1．2013年度年間行事（旦野原キャンパス）…… 5
2．2014年度年間行事（旦野原キャンパス）…… 8

C．業務報告

2013年度旦野原キャンパス学生利用者数 …… 11
2014年度旦野原キャンパス学生利用者数 …… 12
2013年度旦野原キャンパス職員利用者数 …… 13
2014年度旦野原キャンパス職員利用者数 …… 14
2013年度学生健康診断受診率 …… 15
2013年度学生ＢＭＩ …… 16
2013年度学生胸部レントゲン・血圧・尿検査 …… 17
2014年度学生健康診断受診率 …… 18
2014年度学生ＢＭＩ …… 19
2014年度学生胸部レントゲン・血圧 …… 20
2014年度学生尿検査 …… 21
2013年度メンタルヘルス相談概要 …… 22
2014年度メンタルヘルス相談概要 …… 23
2012年度休・退学者の実状 …… 24
2013年度休・退学者の実状 …… 25
ぴあＲＯＯＭの紹介 …… 26
産業保健活動 …… 28

D．保健管理センター挾間健康相談室資料

2013年度年間行事（挾間キャンパス）…… 29
2014年度年間行事（挾間キャンパス）…… 30
2013年度挾間健康相談室学生利用者数 …… 31
2014年度挾間健康相談室学生利用者数 …… 32
2013年度挾間健康相談室職員利用者数 …… 33
2014年度挾間健康相談室職員利用者数 …… 34
2013年度学生健康診断受診率、ＢＭＩ、学生胸部レントゲン …… 35
2013年度学生血圧、尿検査、血液検査 …… 36

2014年度学生健康診断受診率、ＢＭＩ、学生胸部レントゲン …… 37
2014年度学生血圧、尿検査、血液検査 …… 38
2013年度麻疹等予防接種、方法基準値、Ｂ型肝炎抗体検査 …… 39
2013年度インフルエンザ予防接種、ツベルクリン反応検査 …… 40
2014年度麻疹等予防接種、Ｂ型肝炎抗体検査 …… 41
2014年度インフルエンザ予防接種、ツベルクリン反応検査 …… 42
禁煙、飲酒、運動習慣 …… 43

Ｅ．学内外の教育・広報活動及び調査研究

大分大学学生の喫煙に関する実態調査と禁煙サポートについて …… 45
大分大学保健管理センター（2013・2014年度）業績 …… 49

A. 診察・相談日程表・
センタースタッフ

1．診察・相談日程表・センタースタッフ

①　日程表（旦野原キャンパス）　2013年度～2014年度

○常勤医師・保健師による診察・健康相談等日程

曜　　日	時　　間	内　　容	担　　当
月曜日～金曜日 （祝祭日は除く。）	８時30分～13時 14時～17時15分	診察・応急措置・健康相談等	藤田医師・工藤医師・堤医師・河野保健師

○非常勤医師による相談日程

曜　　日	時　　間	内　　容	担　　当
毎月２回（水曜日）	午後	整形外科	内田医師
〃	午後	婦人科	吉松医師

○非常勤カウンセラーによるカウンセリング日程

曜　　日	時　　間	内　　容	担　　当
水曜日	13時～17時	カウンセリング	高橋カウンセラー
木曜日	15時～17時	〃	小林カウンセラー
金曜日	12時～16時	〃	後藤カウンセラー

②　スタッフ（旦野原キャンパス）　2013年度～2014年度

○常勤医師

所長（教授）　藤田長太郎（精神科医）　2012年４月～2014年３月（退職）
（1995年７月～2012年３月　教授）
（産業医併任　2004年10月～　王子キャンパス）

所長（教授）　工藤　欣邦（内科医）　2014年６月～
（2012年４月～2014年５月　准教授）
（産業医併任　2012年４月～　旦野原キャンパス）

准教授　堤　隆（精神科医）　2014年４月～
（産業医併任　2014年６月～　王子キャンパス）

○常勤保健師・事務職員

保健師　河野香奈江　2011年８月～
（2011年６月～2011年７月　非常勤職員（保健師））

専門職員　豊饒　義徳　2011年４月～2013年８月

特任職員　　大神　定之　　2013年９月～

○非常勤医師

内科医　　寺尾　英夫　　2012年４月～
精神科医　　衛藤　　龍　　1995年４月～
整形外科医　　内田　和宏　　1997年４月～
婦人科医　　吉松　靖子　　2000年10月～

○非常勤カウンセラー

臨床心理士　　高橋　陽子　　2001年４月～
臨床心理士　　後藤佐智子　　2004年４月～
臨床心理士　　小林　弘幸　　2010年４月～2015年５月

③　診断・相談等日程表（挟間キャンパス）　2013年度～2014年度

○常勤医師・保健師による診察・健康相談等日程

曜　　日	時　　間	内　　容	担　　当
月曜日～金曜日 （祝祭日は除く。）	８時30分～13時 14時～17時15分	診察・応急措置・健康相談等	兒玉医師・ 木戸保健師

○精神科医による相談日程

曜　　日	時　　間	内　　容	担　　当
木曜日	15時30分～17時30分	カウンセリング	藤田医師（25年度） 堤医師（26年度～）

○非常勤医師等による相談日程

曜　　日	時　　間	内　　容	担　　当
要予約	要予約	婦人科	楢原医師
要予約	要予約	精神科	穐吉医師
要予約	要予約	カウンセリング	関口助手

○非常勤カウンセラーによるカウンセリング日程

曜　　日	時　　間	内　　容	担　　当
火曜日	11時30分～15時30分	カウンセリング	後藤カウンセラー

④　スタッフ（挟間キャンパス）　2013年度～2014年度

○常勤医師

講　師	兒玉　雅明（内科医）	2009年８月～2016年３月

○常勤保健師・事務職員

保健師	木戸　芳香	2009年４月～
事務補佐員	甲斐　和子	2013年４月～2014年３月
	笹島　三幸	2014年４月～

○非常勤医師

婦人科医	楢原　久司	1997年４月～
精神科医	穐吉條太郎	1998年４月～

○非常勤カウンセラー

臨床心理士	関口　　愛	2004年４月～
臨床心理士	後藤佐智子	2011年４月～

B. 年 間 主 要 業 務

2013年度保健管理センター年間行事（旦野原キャンパス）

月	日	曜日	行　事　等	出席者等
４月	４日	木	入学式（救護）	藤田所長（以下「所長」
	５日	金	新入生ガイダンス	という。）
	６日	土	新入生オリエンテーション	所長
	８日	月	学生定期健康診断開始（～５月13日）	所長ほか
	19日	金	イコールパートナーシップ委員会	所長
	23日	火	遺伝子組み換え実験安全委員会	所長
	24日	水	第１回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
	25日	木	イコールパートナーシップ委員会	所長
５月	１日	水	運営会議	所長
	10日	金	旦野原ぴあ連絡会	所長ほか
	14日	火	日本文理大学ぴあ視察	所長
	15日	水	教育福祉科学部基礎ゼミ	所長ほか
	15日	水	健康診断２次健診開始（尿検査・血圧・内科診察）（～31日）	所長ほか
	22日	水	教育福祉科学部基礎ゼミ	所長ほか
	24日	金	第２回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
	27日	月	第１回安全衛生管理委員会	所長
	29日	水	経済学部基礎ゼミ	所長
６月	５日	水	ハラスメント防止教育講演会	所長ほか
			学生支援部門会議	所長
	７日	金	センター会議	所長ほか
			食堂拡充ＷＧ会議	所長
	20日	木	ぴあスタッフミーティング	所長ほか
	24日	月	新入生健康調査票呼び出し（～28日）	所長ほか
	28日	金	第３回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
７月	２日	火	運営会議	所長
	３日	水	メンタルヘルス専門委員会	所長ほか
			学生支援部門会議	所長
			県立看護大実習事前打ち合わせ	所長ほか
	10日	水	大分県立看護科学大学初期体験実習（～12日）	所長ほか
	15日	月	海の日　通常授業　救護	所長ほか
	26日	金	第４回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
			知的障害相談所全国集会　講師	所長
	31日	水	イコパ調整委員会	所長
			食堂拡充ＷＧ会議	所長

８月	２日	金	大分大学教員免許状更新講習	所長ほか
	４日	日	Ｊｒサイエンス事業救護	所長ほか
	８日	木	オープンキャンパス　救護	所長ほか
	19日	月	旦野原キャンパス教職員対象健康セミナー	工藤准教授
	21日	水	旦野原キャンパス教職員対象健康セミナー	工藤准教授
	28日	水	九州地区保健管理研究協議会（～30日）	所長ほか
９月	３日	火	運営会議	所長
	９日	月	食堂ＷＧ会議	所長
	10日	火	学生支援部門会議	所長
	12日	木	ぴあ連絡会	所長
	18日	水	男女共同参画会議	所長
			食堂ＷＧ会議	所長
	24日	火	インフルエンザ予防接種予約システム開始	所長ほか
	26日	木	センター会議	所長ほか
	27日	金	第５回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
10月	１日	火	大分大学統合10周年記念式典	所長
			運営会議	所長
	14日	月	体育の日　通常授業　救護	所長ほか
	16日	水	イコールパートナーシップ委員会	所長
			男女共同参画会議	所長
	28日	月	学生インフルエンザ予防接種（～30日）	所長ほか
	29日	火	第６回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
11月	２日	土	学園祭（４日まで）	所長ほか
	６日	水	学生インフルエンザ予防接種（～８日）	所長ほか
	８日	金	メンタルヘルス講演会	所長ほか
	13日	水	第51回全国大学保健管理研究集会（岐阜市）（～14日）	所長ほか
	15日	金	2013年度国立大学法人保健管理施設協議会総会	所長ほか
	18日	月	職員　インフルエンザ予防接種（～27日）	所長ほか
	21日	木	ぴあスタッフミーティング	所長
	29日	金	第７回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
12月	４日	水	推薦入試　救護	所長ほか
	５日	木	学生　特殊健診	所長ほか
	13日	金	イコールパートナーシップ委員会	所長
	19日	木	第２回安全衛生管理委員会	所長ほか
			ぴあスタッフミーティング	所長
	20日	金	第８回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
	25日	水	予算委員会	所長

１月	７日	火	運営会議	所長
	14日	火	職員対象　嘔吐物処理方法講習会	所長ほか
	18日	土	大学入試センター試験　救護（19日まで）	所長ほか
	22日	水	学生支援部門会議	所長
	24日	金	イコールパートナーシップ委員会	所長
			第９回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
	30日	木	ぴあスタッフミーティング	所長
２月	７日	金	センター会議	所長ほか
			旦野原・ぴあ連絡会	所長
	10日	月	運営会議	所長
	19日	水	学生支援部門会議	所長
	28日	金	第10回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
	25日	火	前期日程　救護（26日まで）	所長ほか
３月	３日	月	学生定期健康診断　自動予約開始	所長ほか
	４日	火	運営会議	所長
	12日	水	後期日程　救護（13日まで）	所長ほか
	19日	水	予算委員会	所長
			男女共同参画会議	所長
	20日	木	第３回安全衛生管理委員会	所長ほか
	24日	木	学生支援部門会議	所長
	25日	月	卒業式　（救護）	所長ほか
	26日	火	健診業者と打ち合わせ	所長
	28日	水	第11回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
	31日	金	藤田所長退職（離任式）	所長ほか

2014年度保健管理センター年間行事（旦野原キャンパス）

月	日	曜日	行　事　等	出席者等
4月	1日	火	古城和敬理事（教育担当）がセンター所長事務取扱に就任 堤　准教授就任	
	4日	金	入学式　（救護）	工藤准教授ほか
	5日	土	新入生ガイダンス	工藤准教授
	6日	日	新入生オリエンテーション	工藤准教授
	7日	月	学生定期健康診断開始（～5/14）	工藤准教授ほか
	16日	水	2014年度前期全学共通科目「分大キャンパスライフ」 学生生活への準備Ⅰ講義	工藤准教授
			第1回身体等に障がいのある学生の支援委員会	工藤准教授
	24日	木	第1回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
5月	8日	木	第2回身体等に障がいのある学生の支援委員会	工藤准教授
			健康診断2次健診（～30日）	工藤准教授ほか
	21日	水	教育福祉科学部学生対象基礎ゼミ	工藤准教授、堤准教授
	22日	木	第2回旦野原キャンパス衛生委員会	工藤准教授
			血圧・内科診察2次健診（～28日）	工藤准教授ほか
	28日	水	教育福祉科学部学生対象基礎ゼミ、経済学部学生対象基礎ゼミ	工藤准教授、堤准教授
	29日	木	第2回王子キャンパス衛生委員会	工藤准教授
6月	1日	日	工藤准教授が教授に昇任（保健管理センター所長に就任）	工藤所長（以下「所長」という。）
	2日	月	新入生健康調査票呼び出し	
	4日	水	第1回イコールパートナーシップ委員会	
			ハラスメント防止教育講演会	所長、堤准教授
	6日	金	第5回全国大学保健管理協会総会（京都市）	所長
	11日	水	工学部教員対象講演会「正しい知識で禁煙実現」	所長
	19日	木	センター会議	所長ほか
			大分県立科学大学　実習事前打ち合わせ	所長ほか
	25日	水	衛生委員会（王子キャンパス）	堤　准教授
7月	1日	火	第4回運営会議	所長
	4日	金	学生支援部門会議	堤　准教授
	3日	木	第3回旦野原キャンパス衛生委員会	所長
	16日	水	大分県立看護科学大学学生初期体験実習	所長ほか
	21日	水	海の日　通常授業救護	所長
	23日	水	事務職員対象健康セミナー「今からでも間に合う生活習病対策」	所長
	30日	木	第4回学内共同教育研究施設等管理委員会	所長
	31日	水	第4回旦野原キャンパス衛生委員会	所長
			衛生委員会（王子キャンパス）	堤　准教授
8月	1日	金	教員免許講習会　講師	所長ほか
	4日	月	第1回男女共同参画推進本部会議	所長
	6日	水	第1回禁煙担当者会議	所長ほか
	7日	木	経済学部学生対象講演会「アルコールの正しい知識を持って行動しよう」	所長 所長
	8日	金	オープンキャンパス　救護	所長ほか
	10日	日	Ｊｒサイエンス事業　救護	所長ほか
	20日	水	2014年度全国大学保健管理協会九州地方部会幹事会	所長

	21日	木	第44回九州地区大学保健管理協議会（～22日）	所長ほか
	26日	火	2014年度全国大学保健管理協会九州地方部会総会	所長
	29日	金	第８回遺伝子組換え実験安全委員会	所長
			学生対象熱中症セミナー	所長
９月	１日	月	学生対象熱中症セミナー	所長
	２日	火	第５回運営会議	所長
	３日	水	第52回全国大学保健管理研究集会（東京）（～４日）	所長ほか
			全国大学保健管理協会第６回総会	所長
	５日	金	2014年度国立大学法人保健管理施設協議会総会	所長
	９日	火	事務職員対象健康セミナー「今からでも間に合う生活習慣病対策」	所長
	10日	水	九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修	堤　准教授
	12日	金	教職員対象セミナー　救命処置とAEDの使用法・熱中症対策	所長
	17日	水	禁煙外来開始	所長ほか
			メンタルヘルス専門委員会	所長ほか
	24日	水	センター会議	所長ほか
			衛生委員会（王子キャンパス）	堤　准教授
	25日	木	第５回旦野原キャンパス衛生委員会	所長
10月	２日	木	インフルエンザ予防接種　自動予約開始	所長ほか
	６日	月	第４回身体に障がいのある学生の支援委員会	所長
	７日	火	第６回運営会議	所長
	10日	金	第５回学内共同教育研究施設等管理委員会	所長
	15日	水	工学部１年生対象講演会　タバコとアルコールの害	所長
			第１回予算委員会	所長
			学生支援部門会議	堤　准教授
	20日	月	工学部１年生対象講演会　タバコとアルコールの害	所長
	23日	木	大分県立看護科学大学NP教育講義	所長
	27日	月	学生対象インフルエンザ予防接種（29日，11月５日）	所長ほか
	29日	水	衛生委員会（王子キャンパス）	堤　准教授
	30日	木	第６回旦野原キャンパス衛生委員会	所長
11月	１日	土	学園祭（３日まで）	所長ほか
	４日	火	第７回運営会議	所長
	５日	水	大分県立看護科学大学NP教育講義	所長
			学生対象インフルエンザ予防接種（17，19，20，26日）	所長ほか
	14日	金	第２回禁煙担当者会議	所長ほか
	19日	水	第２回男女共同参画推進本部会議	所長
	22日	土	推薦入試　救護	所長ほか
	26日	水	職員　インフルエンザ予防接種	所長ほか
			衛生委員会（王子キャンパス）	堤　准教授
	28日	金	第７回旦野原キャンパス衛生委員会	所長
12月	２日	火	第４回イコールパートナーシップ委員会	所長
			第８回運営会議	所長
	３日	水	2014年度第２回日本学術会議科学者懇談会・学術講演会	所長
			学生支援部門会議	堤　准教授
	５日	金	メンタルヘルス講演会（発達障害支援研究所「たまや」所長高橋正泰先生）	所長ほか
	10日	水	教育福祉科学部教員対象講演「正しい知識で禁煙実現」	所長

	11日	木	学生　特殊健康診断	所長ほか
	15日	月	第２回予算委員会	所長
	17日	水	出張呼気一酸化炭素濃度測定（～18日）	所長ほか
	18日	木	第１回安全衛生管理委員会	所長ほか
	24日	水	第８回旦野原キャンパス衛生委員会	所長
			衛生委員会（王子キャンパス）	堤　准教授
１月	13日	火	第９回運営会議	所長
	17日	土	大学入試センター試験　救護（18日まで）	所長ほか
	21日	水	衛生委員会（王子キャンパス）	堤　准教授
	28日	水	第９回旦野原キャンパス衛生委員会	所長
			2014年度第１回保健管理センター運営委員会	所長ほか
２月	２日	月	マネージメントセミナー「長時間労働による健康障害と対策」	所長
	３日	火	第10回運営会議	所長
	４日	水	第３回禁煙担当者会議	所長ほか
	５日	木	第６回学内共同教育研究施設等管理委員会	所長
	17日	火	第３回予算委員会	所長
	18日	水	衛生委員会（王子キャンパス）	堤　准教授
	20日	金	医学部医学科4年生講義「症候学腹痛」	所長
	24日	水	第10回旦野原キャンパス衛生委員会	所長
	25日	水	前期試験　救護（26日まで）	所長ほか
３月	３日	火	学生定期健康診断自動予約開始	所長ほか
	９日	月	第８回学内共同教育研究施設等管理委員会	所長
	11日	水	学生支援部門会議	堤　准教授
	12日	木	後期試験救護	所長ほか
	13日	金	第５回イコール・パートナーシップ委員会	所長
	18日	水	第１回保健管理センター研究倫理審査委員会	所長ほか
			衛生委員会（王子キャンパス）	堤　准教授
	23日	月	第３回男女共同参画推進本部会議	所長
	24日	火	第11回旦野原キャンパス衛生委員会	所長
	25日	水	卒業式（救護）	所長ほか

C. 業　務　報　告

表１．2013年度 旦野原キャンパス学生利用者数

	内科								外科																			
	ｲﾝﾌﾙ	感染性胃腸炎	感冒	その他（内科疾患）	高血圧	胸部X-P異常	検尿精査	消化器疾患	熱傷創傷処置	整形外科	歯科口腔外科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	婦人科	泌尿器科	ｲﾝﾃｰｸ	意見書発行	健診事後措置	ベッド利用	予防接種採血	その他	健診証明書	相談	緊急出動	健康調査呼出	紹介状	合計
４月	8	9	79	11	5	0	0	5	14	14	1	0	2	10	8	1	8	1	0	11	0	13	5	0	0	0	21	226
５月	8	8	91	19	82	21	13	10	19	19	3	8	3	26	11	3	7	7	72	13	0	27	23	0	0	0	42	535
６月	0	18	75	8	40	2	1	9	23	31	1	2	9	17	13	1	10	8	2	14	7	40	19	6	0	77	36	469
７月	0	8	60	6	6	0	0	7	27	17	3	2	8	14	8	0	3	4	1	11	14	20	3	5	1	3	16	247
８月	0	1	10	4	0	0	0	6	10	1	0	0	3	6	1	0	4	1	0	4	0	9	6	0	0	0	3	69
９月	0	0	15	4	4	0	0	1	5	3	1	1	1	5	3	1	12	0	0	5	0	13	15	1	2	0	7	99
10月	0	6	88	11	4	0	0	6	27	14	1	2	4	12	11	0	10	6	0	15	300	34	7	0	0	0	13	571
11月	0	10	101	3	0	0	0	5	18	16	2	2	2	10	12	1	9	6	0	8	24	16	4	0	0	0	9	258
12月	0	12	65	12	0	0	0	6	4	9	1	1	2	5	3	1	8	3	0	6	7	5	4	0	1	0	13	168
１月	67	17	69	4	1	0	0	6	9	13	2	1	3	6	6	0	11	30	9	11	0	27	5	2	1	0	41	341
２月	24	1	27	4	0	0	0	5	5	6	2	1	0	2	3	0	2	7	0	0	0	6	4	5	0	0	13	117
３月	0	1	15	1	0	0	0	2	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	14	0	1	0	2	41
合計	107	91	695	87	142	23	14	68	162	143	18	20	37	114	80	8	84	73	84	98	352	211	109	19	6	80	216	3,141

表１は2013年度学生の旦野原キャンパスの利用状況を示したものである。
疾患別では感冒が一番多く、医療機関に紹介した学生も数多くいた。また、インフルエンザが疑われる場合は医師がインフルエンザ迅速診断検査を実施し、陽性の場合は医療機関を紹介した。
５月、６月に高血圧で来所した学生が多いのは、二次健診対象者である。家庭血圧の測定や、日常生活における注意点等を説明し、必要時医療機関を紹介している。

表２．2014年度 旦野原キャンパス学生利用者数

	内科									外科																				
	ｲﾝﾌﾙ	感染性胃腸炎	感冒	その他	高血圧	胸部X-P異常	検尿精査	肝機能障害	消化器疾患	熱傷創傷処置	整形外科	歯科口腔外科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	婦人科	泌尿器科	ｲﾝﾃｰｸ	意見書発行	健診事後措置	ベッド利用	予防接種採血	その他	健診証明書	緊急出動	相談	禁煙外来	健康調査呼出	紹介状	合計
４月	2	7	61	13	35	0	7	0	4	19	12	4	4	5	6	6	1	5	2	5	4	4	9	11	0	14	0	0	14	254
５月	0	4	53	18	77	8	85	1	13	21	30	6	0	5	15	10	4	14	3	6	18	3	31	21	3	1	0	0	31	481
６月	0	7	51	13	14	5	0	0	16	22	23	3	2	3	11	7	1	8	8	1	10	0	20	24	0	16	1	73	29	368
７月	0	8	48	5	4	0	0	0	9	17	17	5	5	5	14	8	3	17	10	1	22	0	12	13	1	8	4	0	34	270
８月	0	0	16	4	1	0	0	0	1	8	6	0	1	0	2	2	0	2	2	0	4	0	4	12	0	3	0	0	11	79
９月	0	1	9	2	0	0	0	0	11	3	2	1	1	0	3	1	0	3	1	1	1	0	7	2	0	8	5	0	4	66
10月	1	6	69	9	0	0	0	0	17	20	29	3	6	7	16	10	5	13	13	2	10	300	57	11	0	9	26	0	38	677
11月	0	5	67	2	1	0	0	0	6	11	11	2	0	6	7	4	0	6	10	0	9	0	38	2	0	6	14	0	14	221
12月	0	8	65	4	0	0	0	0	3	10	16	4	1	3	5	6	0	13	12	0	5	0	63	4	2	6	17	0	20	267
１月	107	12	96	3	0	0	0	0	9	3	11	3	1	6	6	5	2	12	70	2	10	0	37	0	0	5	13	0	53	466
２月	9	2	10	3	0	0	0	0	5	2	5	0	3	0	2	2	1	9	6	0	3	0	30	7	0	12	13	0	12	136
３月	2	0	18	0	0	0	0	0	1	3	0	1	2	2	3	2	0	6	0	1	0	0	13	20	0	12	7	0	6	99
合計	121	60	563	76	132	13	92	1	95	139	162	32	26	42	90	63	17	108	137	19	96	307	321	127	6	100	100	73	266	3,384

表２は2014年度学生の旦野原キャンパスの利用状況を示したものである。
疾患別にみると、今年度も感冒が一番多かった。緊急出動については、２件がてんかん発作、２件が血管迷走神経反射疑い、２件が急性腹症であった。てんかん発作の２名および急性腹症の１名は救急搬送された。
2014年９月からは禁煙外来が始まり、学長裁量経費により無料で禁煙補助薬を提供できるようになった。教育啓発活動やPR活動などにより、禁煙外来の受診者が昨年度と比較して大幅に増加した。

表３．2013年度 旦野原キャンパス職員利用者数

	内科					外科													
	ｲﾝﾌﾙ	感染性胃腸炎	感冒	その他	消化器疾患	熱傷創傷処置	整形外科	歯科口腔外科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	婦人科	泌尿器科	ベッド利用	予防接種採血	その他	緊急出動	面談保健指導	合計
４月		1	9	2	3	2	3											3	23
５月			17	2	2	1	3	1	1	1	3								31
６月			7	2	4	2	4		1		6			1				1	28
７月			4	1	1	4	5				5		1	1				2	24
８月			3	5	3	1	4				1			3		6	2	2	30
９月			9	6	3	1	4	1	1		2							2	29
10月			5	3	3	2	10				2	3		0		3			31
11月		1	14	2	1	1	6				0	0	1	2	550	5		32	615
12月			18	1	3	2	0		1		2	0		1		5			33
１月			21	2	2		6	1			1	1		2		3			39
２月			17	4	5	2	5	1	1			1		2		2			40
３月		1	7	1			4	3						1			1		18
合計	0	3	131	31	30	18	54	7	5	1	22	5	2	13	550	24	3	42	941

表３は2013年度旦野原キャンパス教職員の利用状況を示したものである。
疾患別にみると感冒が最も多く、月２回整形外科医による外来も多くの教職員が訪れている。また、毎年教職員対象にインフルエンザ予防接種を実施しており、今年度も計550名に接種した。

表４．2014年度 旦野原キャンパス職員利用者数

	内科					外科														
	ｲﾝﾌﾙ	感染性胃腸炎	感冒	その他	消化器疾患	熱傷創傷処置	整形外科	歯科口腔外科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	婦人科	泌尿器科	ベッド利用	予防接種採血	その他	緊急出動	面談保健指導	禁煙外来	合計
４月			7	1	5	2	4			1	1	1				1				23
５月			2		2	1	2				1	2	1			1		8		20
６月			2	5	5	1	3		1		5							9		31
７月			11	2	6	1	6				3	1	1	2		1		6		40
８月			3	4	5	1	3		1					2				7		26
９月		1	9	4	1	3	6	1	1		1							6		33
10月			5	4	2	2	6		2			1						29		51
11月			8	7	3	1	5	1				1		2	550	1		2	4	585
12月		1	14	1	2	2	2	1		1				2		1		7	5	39
１月	2	1	12		1	3	3		1				2					2	2	29
２月	2	1	11	5	1	2	5					1	1			1		4	1	35
３月	3		13	3	3		2		1	1	3			1				10	3	43
合計	7	4	97	36	36	19	47	3	7	3	14	7	5	9	550	6	0	90	15	955

2014年度教職員の旦野原利用状況を示している。疾患別では感冒が最も多く、2014年度はインフルエンザも部署内で流行した。教職員には毎年予防接種をしているが、早めの対応と予防が重要と考えられ、学内イントラネットで流行状況について掲示した。また、禁煙外来が９月から始まり、学長裁量経費により禁煙補助薬を用いた治療が無償で行えるようになったのも特徴である。

表５．2013年度 学生健康診断受診率

	年次	対象者数	受診者数	受診率
教育福祉科学部	1	261	257	98.5%
	2	256	216	84.4%
	3	255	236	92.5%
	4	298	255	85.6%
	計	1,070	964	90.1%
経済学部	1	314	306	97.5%
	2	341	183	53.7%
	3	317	267	84.2%
	4	374	276	73.8%
	計	1,346	1,032	76.7%
工学部	1	387	379	97.9%
	2	389	233	59.9%
	3	470	316	67.2%
	4	473	376	79.5%
	計	1,719	1,304	75.9%
教育学研究科	1	43	35	81.4%
	2	42	28	66.7%
	計	85	63	74.1%
経済学研究科	1	20	15	75.0%
	2	33	13	39.4%
	3	6	1	16.7%
	計	59	29	49.2%
工学研究科	1	179	160	89.4%
	2	168	145	86.3%
	3	15	1	6.7%
	計	362	306	84.5%
福祉社会科学研究科	1	9	2	22.2%
	2	22	0	0.0%
	計	31	2	6.5%
総計		4,672	3,700	79.2%

＊社会人学生で職場健診を受診した者は、その結果の提出で受診とみなす。

健診受診率は学部生が80.9％で大学院生は53.6％であった。大学院生の受診率が低く、学部生も例年８割程度の受診率である。2013年度から自動予約システムを開始し、新入生と留学生以外予約制とした。受診率の低下が懸念されたが健康診断時の混雑が解消され、受診率が下がることはなかった。

表６．2013年度学生BMI

		18.5未満	18.5以上 25未満	25以上 30未満	30以上	計
男　　性	教育福祉科学部	18	219	39	9	285
	経　済　学　部	59	416	77	18	570
	工　　学　　部	116	792	158	47	1,113
	計	193	1,427	274	74	1,968
女　　性	教育福祉科学部	77	544	50	8	679
	経　済　学　部	63	345	49	5	462
	工　　学　　部	21	144	24	2	191
	計	161	1,033	123	15	1,332

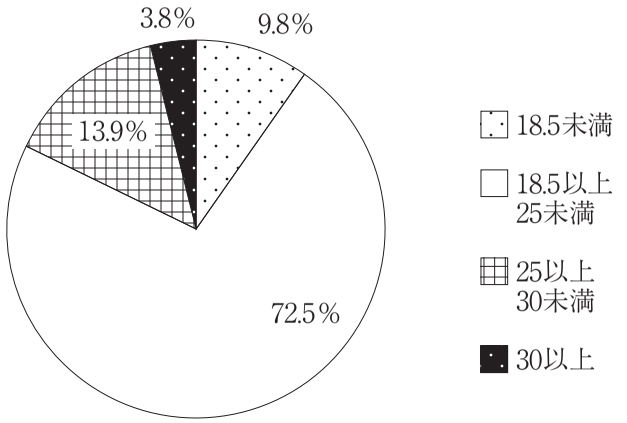


図１　BMI（男性）

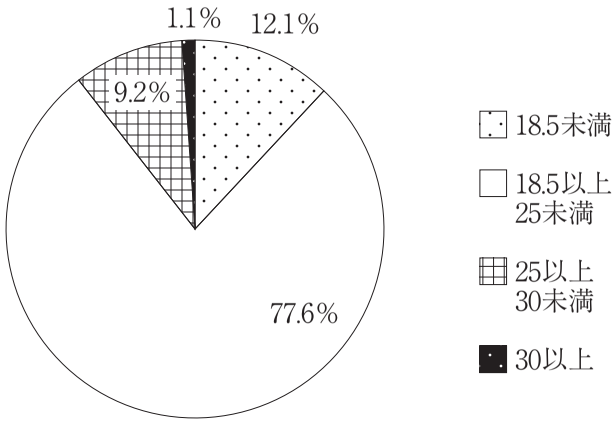


図２　BMI（女性）

ＢＭＩ25以上は男性17.7％、女性10.3％であり、18.5未満は男性9.8％、女性12.1％であった。

表７．2013年度 学生胸部レントゲン

	要観察指導	要再検査	要精密検査
胸椎側弯	16	0	0
その他	11	0	0
計	27	0	0

胸部レントゲンの結果は表７の通りで、要観察指導27名に関しては後日呼び出しをして、医師より説明を行った。

表８．2013年度 学生血圧

	１次検査		２次検査			３次検査（１週間後）				follow		
	受検者数	要再検査者	受検者数	内訳		受検者数	内訳			受検者数	内訳	
				正常域	家庭血圧へ		正常域	要観察	医療機関へ		正常域	要観察
教育福祉科学部	964	24	12	6	6	5	4	1	0	0	0	0
経済学部	1,032	40	26	3	23	20	19	0	1	2	1	1
工学部	1,304	46	29	3	26	23	22	1	0	3	2	1
大学院	400	13	7	1	6	4	4	0	0	0	0	0
計	3,700	123	74	13	61	52	49	2	1	5	3	2

		140mmHg以上	90mmHg以上	140mmHg以上かつ90mmHg以上
教育福祉科学部	男	3	1	1
	女	1	0	0
経済学部	男	6	2	1
	女	1	1	1
工学部	男	17	7	5
	女	0	0	0
計		28	11	8

血圧の２次検査の対象は、健康診断時の１回目の値が収縮期血圧140以上または拡張期血圧90以上で、２回目も同様の学生である。２次健診でも血圧高値の学生には、血圧計の貸し出しを行い、１週間家庭血圧を測定して測定後来所してもらうようにしている。医療機関に紹介した学生は１名であった。

表９．2013年度 学生尿検査

	１次検査		２次検査					３次検査			
	受検者数	要再検査数	受検者数	内訳				受検者数	内訳		
				異常なし	要観察	医療機関紹介	３次検査へ		異常なし	要観察	医療機関紹介
蛋白	3,252	13	10	4	2	1	3	2	0	0	2
糖	3,252	12	9	8	0	0	1	2	1	0	1
潜血	3,252	22	20	12	3	2	3	3	0	1	2

再検査対象は、蛋白２＋以上、糖＋以上、潜血２＋以上とした。
女子学生で月経過多症などの相談もあり、婦人科の紹介を行なった。
また、３次検査で医療機関紹介した学生は３名であった。

表10. 2014年度 学生健康診断受診率

	年次	対象者数	受診者数	受診率
教育福祉科学部	1	317	291	91.8%
	2	260	228	87.7%
	3	252	231	91.7%
	4	296	255	86.1%
	計	1,125	1,005	89.3%
経済学部	1	334	319	95.5%
	2	357	213	59.7%
	3	303	236	77.9%
	4	354	266	75.1%
	計	1,348	1,034	76.7%
工学部	1	394	381	96.7%
	2	388	272	70.1%
	3	533	284	53.3%
	4	370	304	82.2%
	計	1,685	1,241	73.6%
教育学研究科	1	35	24	68.6%
	2	48	30	62.5%
	計	83	54	65.1%
経済学研究科	1	17	10	58.8%
	2	29	9	31.0%
	3	10	2	20.0%
	計	56	21	37.5%
工学研究科	1	171	143	83.6%
	2	175	147	84.0%
	3	16	1	6.3%
	計	362	291	80.4%
福祉社会科学研究科	1	8	5	62.5%
	2	20	1	5.0%
	計	28	6	21.4%
総計		4,687	3,652	77.9%

＊社会人学生で職場健診を受診した者は、その結果を提出で受診とみなす。

健診受診率は学部が79.9％で大学院は51.1％であった。自動予約システムにより、混雑することはなかったが、今後一層受診率を向上させるための広報活動を強化していく必要がある。

表11．2014年度 学生BMI

		18.5未満	18.5以上 25未満	25以上 30未満	30以上	計
男　　性	教育福祉科学部	28	223	45	8	304
	経　済　学　部	63	444	59	15	581
	工　　学　　部	107	817	111	22	1,057
	計	198	1,484	215	45	1,942
女　　性	教育福祉科学部	90	551	55	5	701
	経　済　学　部	75	341	31	6	453
	工　　学　　部	27	139	17	1	184
	計	192	1,031	103	12	1,338

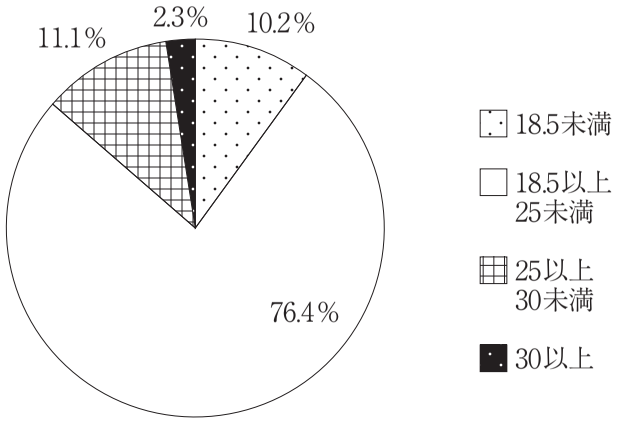


図３　BMI（男性）

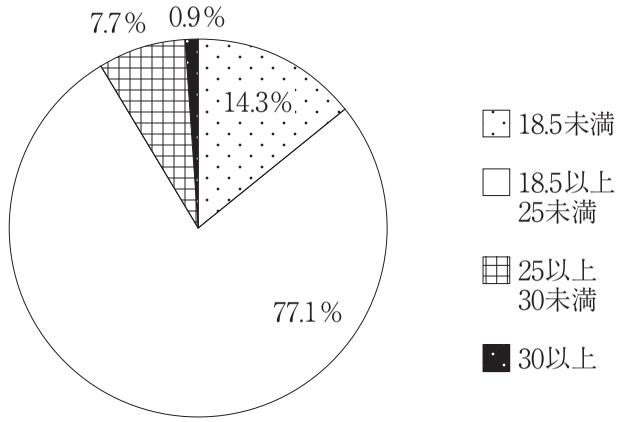


図４　BMI（女性）

ＢＭＩ25以上は男性13.4％、女性8.5％であり、18.5未満は男性10.2％　女性14.3％であった。

表12. 2014年度 学生胸部レントゲン

	要観察指導	要再検査	要精密検査
胸椎側弯	9	0	0
その他	6	0	1
計	15	0	1

要観察指導15名に関しては医師より説明を行った。
要精密検査者は気胸で、医療機関を紹介した。

表13. 2014年度 学生血圧

	1次検査		2次検査			3次検査（1週間後）			
	受検者数	要再検査者	受検者数	内訳		受検者数	内訳		
				正常域	家庭血圧へ		正常域	要観察	医療機関へ
教育福祉科学部	1,005	16	11	4	7	7	7	0	0
経済学部	1,034	26	26	11	15	16	13	1	2
工学部	1,241	37	27	9	17	15	14	1	0
大学院	372	18	14	5	9	9	8	1	0
計	3,652	97	78	29	48	47	42	3	2

		140mmHg以上	90mmHg以上	140mmHg以上かつ90mmHg以上
教育福祉科学部	男	6	4	3
	女	4	3	3
経済学部	男	11	6	5
	女	2	0	0
工学部	男	19	13	12
	女	0	0	0
計		42	26	23

健康診断時の１回目の値が収縮期血圧140以上または拡張期血圧90以上の学生は２回測定をしている。２回目も基準値以上の学生には、二次健診を実施。二次健診では、基準値以上の学生に１週間自動血圧計を貸し出し、家庭血圧を測定してきてもらっている。家庭血圧測定後来所し、高血圧症を疑われ医療機関を紹介した学生は２名であった。

表14. 2014年度 学生尿検査

	１次検査		２次検査				３次検査			
	受検者数	要再検査数	受検者数	内訳			受検者数	内訳		
				異常なし	要観察	医療機関紹介		異常なし	要観察	医療機関紹介
蛋　　白	3,214	20	15	14	1	0	1	1	0	0
糖	3,214	9	9	7	2	0	0	0	0	0
潜　　血	3,214	22	19	16	3	0	0	0	0	0

再検査対象は、蛋白２＋以上、糖＋以上、潜血２＋以上としている。
51名中２次検査に来所した学生は43名だった。Ⅰ型糖尿病で現在治療中の学生は検査対象外とした。

2013年度メンタルヘルス相談概要

（保健管理センター）

		教育	経済	医学	工学	計
相談内容	進路面	2	1	2	4	9
	対人関係	7	1	5	3	16
	学業面	11	3	2	12	28
	恋愛・性	0	2	0	1	3
	体の不調	9	6	2	8	25
	家族・友人	2	1	5	0	8
	精神的問題	18	15	4	10	47
	その他	2	1	1	1	5
精神医学的分類	統合失調症圏	2	1	1	1	5
	気分障害（うつ）	1	2	3	5	11
	神経症圏	15	8	6	7	36
	適応障害（アパシー）	6	4	0	10	20
	心身症	0	1	0	1	2
	摂食障害	3	1	1	0	5
	発達障害圏	4	3	1	8	16
	その他	2	1	0	1	4
	健康なレベル	18	9	9	6	42
相談者実数		51	30	21	39	141
面接延べ数		352	153	110	363	978
呼び出し面接		20	27	8	33	88
面接総数		372	180	118	396	1,066

メンタルヘルス相談の延べ数は、挟間地区の分も加えると年間で1,066件であった。

学生の相談内容としては、「気分が沈む」「不安」「焦り」などの精神的問題が３分の１を占め、残りは学業面や体の不調、対人関係などである。

また、統合失調症やうつ病、神経症性障害など精神科的問題をもつ学生は４割弱であった。これにアパシー学生や過食・心身症的問題をもつ学生が約２割、そして健常レベルの学生が約３割である（発達障害が１割強）。

2014年度メンタルヘルス相談概要

（保健管理センター）

		教育	経済	医学	工学	計
相談内容	進路面	1	1	0	2	4
	対人関係	4	4	3	2	13
	学業面	3	1	2	6	12
	恋愛・性	3	0	0	1	4
	体の不調	3	4	2	3	12
	家族・友人	3	1	4	0	7
	精神的問題	26	13	11	19	69
	その他	6	6	1	2	15
精神医学的分類	統合失調症圏	0	1	1	1	3
	気分障害（うつ）	9	2	4	4	19
	神経症圏	12	6	3	5	26
	適応障害（アパシー）	2	2	1	5	10
	心身症	0	1	0	1	2
	摂食障害	2	1	3	0	6
	発達障害圏	1	4	1	9	15
	その他	7	6	5	4	22
	健康なレベル	16	7	5	6	34
相談者実数		49	30	23	35	137
面接延べ数		247	120	114	279	760
呼び出し面接		29	29	10	15	83
面接総数		276	149	124	294	843

メンタルヘルス相談の延べ数は、挟間地区の分も加えると年間で843件であった。

学生の相談内容としては、「気分が沈む」「不安」「焦り」などの精神的問題が２分の１を占め、残りは対人関係や学業面、体の不調などである。

また、統合失調症やうつ病、神経症性障害など精神科的問題をもつ学生は３割５分であった。これにアパシー学生や過食・心身症的問題をもつ学生が１割強、そして健常レベルの学生が約２割５分である（発達障害が約１割）。

2012年度　休・退学者の実状

1）休学者

理由 / 学部		学業不振	留　学	進路変更	健康問題	経済的理由	家庭の事情	その他（不詳）	計（　）は％
教育福祉		4	1	4	12	2	1	1	25
経　済		8	0	5	13	6	1	11	44
医　学		34	0	0	8	0	3	3	48
工　学		25	1	3	20	1	1	12	63
計		71	2	12	53	9	6	27	180
分類	A	0	0	0	19	0	0	0	19 (10.6)
	B	2	0	1	31	0	0	1	35 (19.4)
	C	69	2	11	3	9	6	5	105 (58.3)
	D	0	0	0	0	0	0	21	21 (11.7)

（分類　A：精神障害あり　B：精神的問題あり　C：精神的問題なし　D：不明）

2）退学者

理由 / 学部		学業不振	就　職	進路変更	健康問題	経済的理由	家庭の事情	授業料未納	その他（不詳）	計（　）は％
教育福祉		0	1	2	5	0	1	1	1	11
経　済		1	2	10	7	1	0	3	3	27
医　学		0	0	0	0	0	0	0	1	1
工　学		9	4	5	13	2	1	4	10	48
計		10	7	17	25	3	2	8	15	87
分類	A	0	1	0	10	0	0	0	1	11 (12.6)
	B	0	6	1	15	0	0	0	1	18 (20.7)
	C	10	0	16	0	3	2	8	1	46 (52.9)
	D	0		0	0	0	0	0	12	12 (13.8)

届け出理由だけではなく、より実状に近い理由で分類した。休・退学者のうち精神的に問題があると思われる者は約30%であった。大分大学の休学率は3.6%（全国的には2.7%）、退学率は1.7%（全国的には1.3%）であった。休・退学率は全国的に1985年の約１%から増加傾向にあった。ここ１－２年も軽度上昇している。

2013年度　休・退学者の実状

1）休学者

理由／学部		学業不振	留　学	進路変更	健康問題	経済的理由	家庭の事情	その他（不詳）	計（　）は％
教育福祉		4	1	7	4	3	4	0	23
経　済		2	1	2	9	1	1	31	47
医　学		31	0	0	6	0	3	1	41
工　学		8	4	17	4	6	1	9	49
計		45	6	26	23	10	9	41	160
分類	A	0	0	3	13	2	1	1	20 (12.5)
	B	0	0	0	3	0	1	1	5 (3.1)
	C	45	6	23	7	8	7	30	126 (78.8)
	D	0	0	0	0	0	0	9	9 (5.6)

（分類　A：精神障害あり　B：精神的問題あり　C：精神的問題なし　D：不明）

2）退学者

理由／学部		学業不振	就職	進路変更	健康問題	経済的理由	家庭の事情	授業料未納	その他（不詳）	計（　）は％
教育福祉		0	3	4	1	1	1	1	2	13
経　済		4	4	0	4	0	0	2	5	19
医　学		1	0	0	0	0	0	0	1	2
工　学		10	9	12	4	0	0	3	5	43
計		15	16	16	9	1	1	6	13	77
分類	A	1	1	0	1	0	1	0	0	4 (5.2)
	B	0	0	0	1	0	0	0	0	1 (1.3)
	C	14	15	16	3	1	0	6	0	55 (71.4)
	D	0	0	0	4	0	0	0	13	17 (22.1)

休・退学者のうち精神的に問題があると思われる者は約15%であった。大分大学の休学率は3.2%（全国的には2.3%）、退学率は1.5%（全国的には2.65%）であった。休・退学率は昨年度と比べて横ばいとなっている。

『ぴあＲＯＯＭ』の紹介

『ぴあROOM』とは？

『ぴあROOM』では、主に心理・社会的支援、家族支援、修学支援などの支援を提供し、利用学生の自己選択能力の形成や自立を支援する活動が行われています。

『ぴあROOM』には『相談室』と『フリースペース』および『学習サポートデスク』があります。

『相談室』では「人と会うのが億劫になってきた」「学校に行きたくない」そのような悩みを持つ学生さんやご家族からの相談を、精神科医・臨床心理士・キャンパスソーシャルワーカー（社会福祉士）がお受けします。また、「ぴあROOM」相談員は必要に応じて指導教員等の教職員と協同して学生に対応したり、学生についての教職員からの相談にも応じています。

『フリースペース』では「ちょっとゆっくりしたい」「誰かと話したい」そのような学生さんたちの居場所です。スタッフが温かい雰囲気で迎えてくれますので気軽に足を運んでみてください。

『学習サポートデスク』では「勉強がわからない」「テスト勉強の方法は？」といった質問に先輩学生チューターと一緒に学習していきましょう。復学後、留年後の科目や単位のとり方などの相談やレポートの書き方等の相談にも応じています。

『ぴあROOM』の利用状況（2013年度－2014年度）

学生本人との相談	1,158	864
家族との相談	59	58
教職員との相談	317	273
家庭訪問	20	30
通信（電話、メール）	690	535
計	2,244	1,760
	（2013年度のべ件数）	（2014年度のべ件数）

学習サポートデスク	1,569	1,576
フリースペース	2,844	2,899
	（2013年度のべ件数）	（2014年度のべ件数）

産業保健活動

産業医　工藤　欣邦（旦野原キャンパス）
　　堤　　隆（王子キャンパス、挾間キャンパス）
　　兒玉　雅明（挾間キャンパス）

1．安全衛生管理委員会（年２回開催）
2．衛生委員会（各キャンパスにて月１回開催）
3．職場巡視（室内環境、VDT作業、安全・衛生・防災対策など）
4．作業環境の改善に関するアドバイス
5．産業医面談（長時間労働者面談、休職・復職面談など）
6．健康相談（身体、メンタル）
7．初期診療（身体、メンタル）
8．保健指導
9．医療機関の紹介
10. 禁煙推進活動
11. インフルエンザ予防接種
12. 健康診断および事後処置
13. 教育啓発活動（健康セミナー、AED講習会、熱中症対策など）

D．保健管理センター挟間健康相談室資料

2013年度年間行事（挟間キャンパス）

月	日	行　　事　　等	出 席 者 等
4	5	新入生オリエンテーション	
		（保健管理センター挟間健康相談室紹介、感染症・喫煙等健康教育・アルコール体質判定）	
	8	学生定期健康診断準備	
	9	学生定期健康診断（４/10．11）	
5	15・17	新入学生 ツベルクリン反応検査１回目	
	27・29	新入学生 ツベルクリン反応検査２回目	
	28	世界禁煙デー キャンパス内啓発活動	
6	３・４	学生・職員 HBsワクチン接種１回目	
	10・11	学生・職員 麻疹・風疹・水痘・ムンプスワクチン接種	
	17	学生健診血液要精密検査	
	27	新入生健康調査２次面接	
7	4	新入生健康調査２次面接	
	８・９	学生・職員 HBsワクチン接種２回目	
	11	大分県立看護科学大学初期体験実習	
8	8	オープンキャンパス救護待機	
	19	医４年 上級配属RIetc電離放射線取り扱い配属前採血	
	28	第43回九州地区大学保健管理研究協議会（8/28.29.30）（那覇市）	当番校 琉球大学
9	24	インフルエンザワクチン予約開始（10/25まで）	
10	1	医２年編入生 入学オリエンテーション	
	7	医２編入生麻疹・風疹・水痘・ムンプス抗体検査	
	15・17	医２年編入生 ツベルクリン反応検査１回目	
	28・30	医２年編入生 ツベルクリン反応検査２回目	
11	5	学生・職員インフルエンザワクチン接種（11/5.6.18.19.20.25）	
	13・14	第51回全国大学保健管理研究集会　（長良川国際会議場）	当番校 岐阜大学
12	２・３	学生・職員HBsワクチン接種３回目	
	4	医２年編入生 麻疹・風疹・水痘・ムンプスワクチン接種	
1	19	大学入試センター試験救護（旦野原キャンパスにて）	
	20・21	HBsワクチン接種後抗体確認採血	
2	３・４	HBsワクチン接種後抗体確認採血	
	9	AO入試救護	
	25・26	一般入試前期日程救護	
3	5	保健所立ち入り調査	
	12	一般入試後期日程救護	
		2014年度学生定期健康診断業者打ち合わせ	

＊保健管理センター会議６/７．９/26．２/７　＊保健所立ち入り調査があった

2014年度年間行事（挟間キャンパス）

月	日	行　　事　　等	出 席 者 等
4	4	新入生オリエンテーション （保健管理センター挟間健康相談室紹介、感染症・喫煙等健康教育・アルコール体質判定）	
	15	学生定期健康診断準備	
	16	学生定期健康診断（４/17．18）	
5	12・14	新入学生 ツベルクリン反応検査１回目	
	26・28	新入学生 ツベルクリン反応検査２回目	
	30	世界禁煙デー キャンパス内啓発活動	
6	２・３	学生・職員 HBsワクチン接種１回目	
	９・10	学生・職員 麻疹・風疹・水痘・ムンプスワクチン接種	
	16	学生健診血液要精密検査	
	26	新入生健康調査２次面接	
7	3	新入生健康調査２次面接	
	７・８	学生・職員 HBsワクチン接種２回目	
	14・15	学生・職員 ムンプスワクチン接種	
	17	大分県立看護科学大学初期体験実習	
8	8	オープンキャンパス救護待機	
	18	医４年 上級配属RIetc電離放射線取り扱い配属前採血	
	20	第43回九州地区大学保健管理研究協議会（8/21.22）（北九州市）	当番校 九州工業大学
9	３・４	第52回全国大学保健管理研究集会　（慶応義塾大学）	当番校 慶応義塾大学
10	2	インフルエンザワクチン予約開始（11/５まで）	
	7	医２年編入生 入学オリエンテーション	
	7	医２編入生 麻疹・風疹・水痘・ムンプス抗体検査	
	20・22	医２年編入生 ツベルクリン反応検査１回目	
11	7	学生・職員インフルエンザワクチン接種(11/10.11.12.17.18.19.26)	
12	２・３	学生・職員 HBsワクチン接種３回目	
	4	医２年編入生 麻疹・風疹・水痘・ムンプスワクチン接種	
1	18	大学入試センター試験救護（旦野原キャンパスにて）	
	26・27	HBsワクチン接種後抗体確認採血	
2	２・３	HBsワクチン接種後抗体確認採血	
	8	AO入試救護	
	25・26	一般入試前期日程救護	
3	12	一般入試後期日程救護	
	17	2015年度学生定期健康診断業者打ち合わせ	

＊保健管理センター会議６/19．９/24．12/17

表１．2013年度 挾間健康相談室学生利用者数

	内科									外科																				医学部のみ											
	インフル	感染性胃腸炎	感冒	その他	高血圧	胸部X-P異常	検尿精査	肝機能障害	消化器疾患	熱傷創傷処置	整形外科	歯科口腔外科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	婦人科	泌尿器科	インテーク	意見書発行	健診事後措置	ベッド利用	予防接種採血	その他	健診証明書	保健指導	緊急出動	相談	合計	健康診断	検尿	ツ反	抗体検査	4種申込み	4種ワクチン	B肝申込み	B肝ワクチン	M4健診	インフルワクチン	B肝抗検査	合計
4月	2	1	28	10	0	0	0	0	1	8	8	1	3	3	1	1	2	1	1	4	6	0	6	9	0	0	3	99	960	71		175								175
5月	0	1	59	16	2	0	0	1	0	3	10	1	2	2	7	2	0	9	0	7	8	0	10	2	0	0	7	149			439		121		207					328
6月	0	0	27	12	1	0	0	0	4	6	14	1	0	7	15	3	0	11	0	20	5	2	5	8	0	0	10	151		43				84		206				290
7月	0	1	18	11	1	0	0	0	2	5	7	0	1	3	9	1	0	7	0	6	7	5	3	33	0	0	11	131						49		171				220
8月	0	1	10	4	1	0	0	0	2	2	1	0	0	0	1	1	0	4	0	0	4	4	0	0	0	0	3	38									9			9
9月	0	0	14	15	0	0	0	0	0	3	1	0	0	2	2	2	0	6	0	7	4	2	1	3	0	0	6	68												0
10月	0	1	22	10	0	0	0	0	0	4	2	0	1	4	6	0	1	10	2	0	6	0	1	3	0	0	17	90			26	10								10
11月	0	0	36	3	0	0	0	0	2	7	8	0	0	3	3	2	1	7	1	0	4	2	1	3	0	0	15	98										602		602
12月	0	1	13	4	0	0	0	0	1	2	2	0	1	2	1	1	0	4	0	0	2	0	4	7	0	0	10	55								180				180
1月	9	1	45	6	0	0	0	0	2	2	5	1	1	1	6	2	0	6	11	0	7	0	5	8	0	1	11	130				107							107	214
2月	2	3	13	7	0	0	0	0	1	4	3	0	1	1	2	0	0	1	0	0	4	0	1	22	0	0	9	74				98							100	198
3月	0	1	11	5	0	0	0	0	4	1	1	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	2	18	0	0	8	56												0
合計	13	11	296	103	5	0	0	1	19	47	62	4	10	30	55	16	4	66	15	44	57	15	39	116	0	1	110	1,139	960	114	465	390	121	133	207	557	9	602	207	2,226

表１は2013年度学生の挾間健康相談室利用状況を示したものである。

身体面において疾患別利用では感冒が一番多かった。新年度が始まった５月とインフルエンザが流行する冬季の11月・１月の利用が多かった。インフルエンザが疑われたらセンターで簡易検査を実施している。インフルエンザの学内での流行はなかった。次に利用が多かったのは整形外科で、内容は部活や授業での打撲・突き指・捻挫などであった。必要時近隣の整形外科を紹介しているが、中には突き指で骨折をしている学生もいたため、早期に専門機関受診を勧める事の必要性を改めて実感した。熱傷・創傷処置では登下校時の転倒による怪我やくつずれなどでの利用であった。月別では特に年度初めの利用が多かった。挾間健康相談室は医学部にあるためワクチン接種やツ反等の利用数が多いことも特徴である。

表２．2014年度 挟間健康相談室学生利用者数

	内科									外科																					医学部のみ											
	インフル	感染性胃腸炎	感冒	その他	高血圧	胸部X-P異常	検尿精査	肝機能障害	消化器疾患	熱傷創傷処置	整形外科	歯科口腔外科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	婦人科	泌尿器科	インテーク	意見書発行	健診事後措置	ベッド利用	予防接種採血	その他	健診証明書	保健指導	緊急出動	相談	禁煙外来	計測	合計	健康診断	検尿	ツ反	４種抗体検査	４種申込み	４種ワクチン	B肝申込み	B肝ワクチン	M４健診	インフルワクチン	B肝抗検査	合計
４月	0	0	22	8	0	0	0	0	3	4	2	0	1	0	2	1	1	0	0	10	5	0	1	4	0	0	7	0	0	71	912			172								172
５月	0	1	21	6	0	0	0	0	2	5	4	2	1	2	6	1	0	2	0	93	8	2	1	4	0	0	11	0	1	173			466		134		220					354
６月	0	0	19	11	0	0	0	1	2	8	8	0	1	2	6	1	0	5	0	55	5	5	1	5	11	0	23	0	0	169	20					81		215				296
７月	0	2	18	8	0	0	0	0	0	8	6	0	5	3	3	2	1	1	0	6	2	5	1	30	0	0	21	0	4	126						66		178				244
８月	0	0	5	3	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	2	3	6	4	0	0	5	0	0	34								1	9			10
９月	0	0	20	8	0	0	0	0	4	1	2	0	0	0	1	0	1	2	0	0	1	0	2	1	0	0	3	0	0	46												0
10月	0	0	21	3	1	0	0	0	2	7	3	0	2	1	4	2	1	3	0	0	1	1	2	0	0	0	15	0	0	69			11	8	5							13
11月	0	2	34	5	0	0	0	0	1	6	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	5	3	0	6	0	0	5	0	1	72										611		611
12月	0	3	29	4	0	0	0	0	1	3	2	0	1	1	2	0	0	1	0	0	5	21	2	1	0	0	16	2	0	94						4		168		3		175
１月	23	3	59	6	0	0	0	0	0	1	2	0	3	1	2	1	1	1	13	0	1	14	4	2	0	0	11	2	0	150								1			103	104
２月	4	2	19	5	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	1	0	2	9	12	4	37	7	19	0	0	9	5	0	139											106	106
３月	0	1	17	9	0	0	0	0	1	1	2	3	0	0	2	0	0	0	1	6	4	4	2	49	0	0	18	1	1	122												0
合計	27	14	284	76	1	0	0	1	16	46	35	5	15	11	33	10	5	17	23	182	43	95	29	125	11	0	144	10	7	1,265	932	0	477	180	139	151	220	563	9	614	209	2,085

表２は2014年度学生の挟間健康相談室利用状況を示したものである。
９月より禁煙サポートを開始し、延10名の利用者があったことがこの年度の特徴である。疾患別の利用では感冒が一番多かった。年度初めと冬季の利用が多かったが、特に１月が多かった。インフルエンザの利用も１月が多かった。次に多かったのは熱傷・創傷処置で、登下校時の転倒による怪我やくつずれなどでの利用である。解剖実習中の切創（指）も１件含まれる。整形外科では、部活や授業での打撲・突き指・捻挫などであり、必要時近隣の整形外科を紹介している。月別では年度初めと年度末の利用が多かった。

【精神衛生相談について】

挟間健康相談室の相談体制は週1回精神科医師（約２時間）と臨床心理士（約４時間）の来所により行われており、インテークや緊急の対応は保健師により行っている。必要に応じ専門医療機関を紹介し、挟間健康相談室でのカウンセリングと併用しフォローしている。また緊急で医療機関受診の必要性が生じた場合は附属病院の医師の協力を得ている。月別の相談件数は挟間健康相談室利用状況に示しているが、長期休暇を除いては10～20件の利用であった。
相談内容では2014年度は精神的問題が多かった。分類では気分障害（うつ）や神経症圏などが多くまた、看護学科で実習前後に教員からの紹介が多かった。

表３．2013年度 挟間健康相談室職員利用者数

	内科									外科																		
	インフル	感染性胃腸炎	感冒	その他	高血圧	胸部X-P異常	検尿精査	肝機能障害	消化器疾患	熱傷創傷処置	整形外科	歯科口腔外科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	婦人科	泌尿器科	インテーク	意見書発行	健診事後措置	ベッド利用	予防接種採血	その他	健診証明書	保健指導	緊急出動	相談	合計
４月			2	2										1														5
５月		1		1					1	1	1																	5
６月									1						1													2
７月			1	1								1		1														4
８月			3							1			1															5
９月			2								2										1							5
10月											2																	2
11月											1										1		1					3
12月			1																									1
１月	3		2								1										1		1					8
２月			2						1		1																	4
３月			3																		1							4
合計	3	1	16	4	0	0	0	0	3	2	8	1	1	2	1	0	0	0	0	0	4	0	2	0	0	0	0	48

表４．2014年度 挟間健康相談室職員利用者数

	内科									外科																				
	ｲﾝﾌﾙ	感染性胃腸炎	感冒	その他	高血圧	胸部X-P異常	検尿精査	肝機能障害	消化器疾患	熱傷創傷処置	整形外科	歯科口腔外科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科	婦人科	泌尿器科	ｲﾝﾃｰｸ	意見書発行	健診事後措置	ベッド利用	予防接種採血	その他	健診証明書	保健指導	緊急出動	相談	禁煙外来	計測	合計
４月			1													2														3
５月			2							1			1																	4
６月			5						1		1										1									8
７月			1	2					2		0																			5
８月			2	1						1	2										2	1								9
９月			0								1				1															2
10月			2	2						2	0					1														7
11月			2	2						1	0				1													3		9
12月	1		4	3						1	2																	7		18
１月	1		4	0					1		2															1		3	1	13
２月	8		4	0	1				1	1	1		2		1					1								4		24
３月	3		2	3	1						1		1	1										1				4		17
合計	13	0	29	13	2	0	0	0	5	7	10	0	4	1	3	3	0	0	0	1	3	1	0	1	0	1	0	21	1	119

表３、表４は2013年度と2014年度の職員の挟間健康相談室利用状況を示した表である。

身体面において疾患別では感冒が一番多かった。次に多かったのは整形外科で腰痛・肩痛などであった。2014年度は９月から禁煙無料サポートを開始したため12月～３月で延21件の利用があった。表にはないが挟間健康相談室では職員に対してもワクチン接種を実施協力しており例年750～800件である。

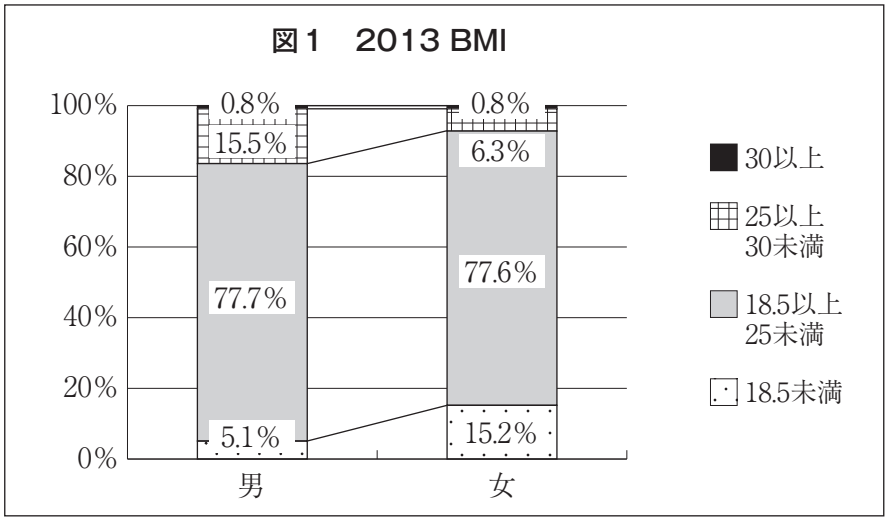
表５．2013年度学生健康診断受診率

	在籍数	休学者	対象数	受診数	受診率（%）
学　部　計	887	23	864	857	99.8%
大 学 院 計	176	21	155	120	77.4%
医学部合計	1,063	44	1,019	977	95.9%

＊休学は４月１日付で届があったものとする

＊社会人学生で職場健診を受診した者は、その結果を提出してもらい受診とみなす。

健診受診率は学部が99.8％で大学院は77.4％であった。学部生の受診率は100％を目標としており未受診者へは電話やメール等で自己にて受診するよう指導しているが、留年している学生などに指導が行き届かない現状があり対策を検討している。大学院生は社会人学生が多く、職場健診を優先しその結果を提出してもらっている。



ＢＭＩの正常は男女とも約78％であった。25以上は男性の方が多く18.5未満は女性の方が多かった。ＢＭＩが高く他の検査でも異常がある場合は保健指導を実施している。

表６．2013年度学生胸部レントゲン

表６ Ｘ－Ｐ	要観察指導	要再検査	要精密検査
胸 椎 側 弯	8	0	0
結 節 状 陰 影	1	0	0
術 後 所 見	2	0	0
計	11	0	0

胸部レントゲンの結果は表６の通りで、要観察指導11名に関しては医師より説明を行った。

表７．2013年度学生血圧

	１次検査		２次検査			
				内訳		
	受検者数	要再検査者	受検者数	正常域	要観察	医療機関紹介
医学科	11	0	0	0	0	0
看護学科	11	0	0	0	0	0
大学院	0	0	0	0	0	0
計	22	0	0	0	0	0

血圧２次検査の対象は、健康診断時の１回目の値が収縮期血圧140以上または拡張期血圧90以上で、２回目も同様の学生である。２次検査者には、後日保健管理センターにて医師と保健師による問診・計測・保健指導を行っている。2013年度は19名（1.2%）が２次検査対象となった。そのうち学部生５名が来所し５名とも２次検査でも高値であり、１名は医療機関を紹介した。２次検査の対象学生全員にアプローチできるような関わりが今後の課題である。（２次検査対象の大学院生は全員職場健診受診者。）

表８．2013年度学生尿検査

	１次検査		２次検査（１か月後）		半年後再検査			
	受検者数	要再検査数	受検者数	半年後再検査	受検者数	異常なし	要観察	医療機関紹介
蛋白	1,063	49	41	9	9	8	1	0
糖	1,063	3	1	0	0	0	0	0
潜血	1,063	4	4	0	0	0	0	0

検尿は１＋以上を２次検査の対象としており、健診から１か月後に早朝尿で検査をしている。２次検査で異常があった学生は10月頃再度検査を実施している。２次検査の対象となったのは56名（0.5%）の学生であった。２次検査には46名が来所し内９名が半年後再検査となった。半年後再検査で要観察となった１名は翌年の定期健診での検尿では異常がなかった。

表９．2013年度学生血液検査

	１次検査				２次検査		
	受検者数	正常ほぼ正常	要保健指導	２次検査	正常ほぼ正常	要観察	医療機関紹介
貧血	189	185	0	4	0	4	0
白血球	189	185	0	4	0	4	0
血小板	189	189	0	0	0	0	0
肝機能	189	175	0	14	0	14	0
脂質	189	178	11	0	0	0	0
尿酸	189	187	2	0	0	0	0

新入生を対象に血液一般検査を実施し、異常が認められた学生には６月に血液２次検査を実施している。２次検査の結果に基づき医師の問診や保健師による生活習慣等の指導を実施している。2013年度は189名の内35名（18.5%）が２次検査または要保健指導の対象となった。肝機能異常の学生には腹部エコーを実施しほとんどは脂肪肝であった。脂質・尿酸値異常については保健指導のみ実施しており、脂質異常８名、尿酸異常１名に保健指導を実施した。すでに２名は医療機関でフォローされていた。

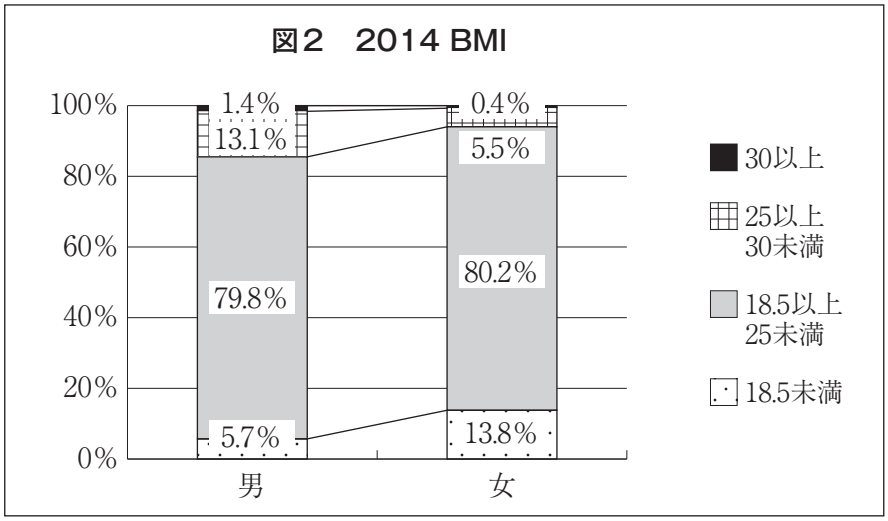
表10. 2014年度学生健康診断受診率

	在籍数	休学者	対象数	受診数	受診率（%）
学　部　計	903	21	882	878	99.5%
大 学 院 計	172	21	151	131	86.8%
医学部合計	1,075	42	1,033	1,009	97.7%

＊休学は４月１日付で届があったものとする

＊社会人学生で職場健診を受診した者は、その結果を提出してもらい受診とみなす。

受診率は学部が99.5％で大学院は86.8％であった。大学院は前年度の77.4％から上昇した。メールやＨＰ等での周知の効果と考える。学部では数名の学生が未受診である。未受診者にはメールや電話などで受診指導をしているが、特に留年している学生に連絡が行き届かない現状があるため対策が必要である。大学院生はほとんどが社会人学生のため職場健診を優先している。



ＢＭＩは正常は男女とも約80％であった。25以上は男性の方が多く18.5未満は女性の方が多かった。ＢＭＩ高値で他の検査でも異常がある場合は保健指導を実施している。

表11. 2014年度学生胸部レントゲン

	要観察指導	要再検査	要精密検査
胸 椎 側 弯	4	0	0
開 胸 術 後	1	0	0
肋 骨 変 形	1	0	0
計	6	0	0

胸部レントゲンの要観察指導者６名に対しては医師より結果説明を行った。

表12. 2014年度学生血圧

	１次検査		２次検査			
				内訳		
	受検者数	要再検査者	受検者数	正常域	要観察	医療機関紹介
医学科	627	13	8	0	8	0
看護学科	251	2	1	0	1	0
大学院	131	8	2	0	2	0
計	1,009	23	11	0	11	0

血圧２次検査の対象は、健康診断時の１回目の値が収縮期血圧140以上または拡張期血圧90以上で、２回目も同様の学生である。２回目の値も高値であれば保健管理センターにて医師の問診・計測・保健指導を行っている。ほとんどは保健管理センターでの再検査でも高値であり、定期的に測定することを勧めている。

表13. 2014年度学生尿検査

	１次検査		２次検査（１か月後）		半年後再検査			
	受検者数	要再検査数	受検者数	半年後再検査	受検者数	異常なし	要観察	医療機関紹介
蛋白	995	43	36	1	1	1	0	0
糖	995	1	0	0	0	0	0	0
潜血	995	13	13	1	1	1	0	0

検尿は１＋以上を２次検査の対象としており、健診から１か月後に早朝尿で検査をしている。２次検査で異常があった学生は10月頃再度検査を実施している。２次検査の対象は57名（5.7％）の学生であった。そのうち49名が来所し２名に異常があり半年後再検査を実施したが、結果は異常なかった。尿糖１＋の学生はすでに治療中であった。

表14. 2014年度学生血液検査

表14 血液	１次検査				２次検査		
	受検者数	正常ほぼ正常	要保健指導	２次検査	正常ほぼ正常	要観察	医療機関紹介
貧血	182	173	0	9	3	1	0
白血球	182	180	0	2	0	1	0
血小板	182	181	0	1	1	0	0
肝機能	182	173	0	9	0	5	0
脂質	182	168	14	0	0	0	0
尿酸	182	175	7	0	0	0	0

血液検査は新入生を対象に一般検査を実施し、異常が認められた学生には６月に血液２次検査を実施している。２次検査の結果に基づき医師の問診や保健師による生活習慣等の指導を実施。肝機能異常の学生には腹部エコーを実施しほとんどは脂肪肝であった。脂質・尿酸異常者は保健指導のみ実施しており、脂質異常は７名・尿酸異常は４名に保健指導を実施した。

表15. 2013年度 麻疹･風疹･水痘･ムンプス抗体検査と追加予防接種

	抗体検査数	陰性数	陰性率（%）	追加接種数	追加接種率（%）
麻　　疹	186	4	2.2	4	100
風　　疹	186	36	19.4	36	100
水　　痘	186	48	25.8	47	97.9
ムンプス	186	70	37.6	68	97.1

表16. 方法・基準値

	方法	基準値
麻　　疹	EIA法（IgG）	４以上
風　　疹	HI法	８倍以上
水　　痘	IAHA法	４倍以上
ムンプス	EIA法（IgG）	４以上

麻疹・風疹・水痘・ムンプスの感染症対策としては、新入生へ抗体検査を実施し抗体陰性者には予防接種を指導し希望者には保健管理センターにて接種している。表16はその人数を示す。学部生の接種率は100％であり、未接種の３名は大学院生である。

表17. 2013年度 Ｂ型肝炎予防接種後抗体検査

	検査数	結　果					
		10未満		10以上50未満		50以上	
合計	207	21	10.1%	60	29.0%	126	60.9%

＊CLIA法：10未満＝陰性

＊10未満は次年度３回追加接種、10以上50未満は次年度１回追加接種を勧奨している

Ｂ型肝炎予防接種は医学科４年・看護学科１年・看護学科編入３年・大学院１年と前年度に十分な抗体が獲得できなかった学生に実施している。４月の定期健診にて抗体検査を実施し、予防接種を６月、７月、12月に実施している。また確認抗体検査は１月に実施している。2013年度は延552名に接種した。

表17は予防接種後の抗体検査結果を示している。50以上の抗体を獲得できた学生は126名（61％）で、50未満の十分な抗体を獲得できなかった学生は81名（39.1％）であった。希望者は翌年度追加接種を勧奨しており、55名が希望した。

表18. 2013年度 インフルエンザ予防接種

	学年	在籍数	接種数	%	学科毎接種率	接種率
学部	医１	105	42	40.0%	62.2%	63.9%
	医２	123	72	58.5%		
	医３	115	66	57.4%		
	医４	115	68	59.1%		
	医５	110	76	69.1%		
	医６	98	90	91.8%		
	看１	58	23	39.7%	68.4%	
	看２	60	44	73.3%		
	看３	70	55	78.6%		
	看４	78	60	76.9%		
大学院	医修	22	5	22.7%	12.2%	12.2%
	看修	20	5	25.0%		
	博士	130	11	8.5%		
医学部合計		1,104	617	55.9%		

インフルエンザ予防接種は希望者に対し実施している。表18は接種率である。学年が上がるに連れ接種率が上がっているが、臨床実習や国家試験との関連も考えられる。例年１・２年生でインフルエンザ感染の報告が多いので、１・２年生の接種率を上げたい。学科別では医学科より看護学科の方が接種率が高い。

表19. 2013年度 ツベルクリン反応検査

	対象数	実数	陰性	弱陽性	中等度陽性	強陽性
１回目	177	177	43	14	113	6
２回目	62	62	11	7	34	0
計	239	239	54	21	147	6

＊２回目検査の対象：１回目検査で陰性、弱陽性、その他指示があった者

ツベルクリン反応検査については新入生を対象に実施しており、2013年度は延べ239人に実施した。結果は表19に示している。

表20. 2014年度 麻疹･風疹･水痘･ムンプス抗体検査と追加予防接種

	抗体検査数	陰性数	陰性率（%）	追加接種数	追加接種率（%）
麻　　疹	170	5	2.9	5	100
風　　疹	170	31	18.2	31	100
水　　痘	170	50	29.4	48	96.0
ムンプス	170	69	40.6	67	97.1

麻疹・風疹・水痘・ムンプスの感染症対策としては、新入生へ抗体検査を実施し抗体陰性者には予防接種を指導し希望者には保健管理センターにて接種している。表20はその人数を示す。学部生の接種率は100％であり、未接種の２名は大学院生である。

2014年度【Ｂ型肝炎予防接種】

表21. Ｂ型肝炎予防接種後抗体検査

	検査数	結　果					
		10未満		10以上50未満		50以上	
合計	207	29	14.1%	57	27.5%	121	58.5%

＊CLIA法：10未満＝陰性

＊10未満は次年度３回追加接種、10以上50未満は次年度１回追加接種を勧奨している

Ｂ型肝炎予防接種は医学科４年・看護学科１年・看護学科編入３年・大学院１年と前年度に十分な抗体が獲得できなかった学生に実施している。４月の定期健診にて抗体検査を実施し、予防接種を６・７・12月に実施している。また確認抗体検査は１月に実施している。2014年度は延べ570名に接種した。

表21は予防接種後の抗体検査結果を示している。50以上の抗体を獲得できた学生は121名（58.5％）で、50未満の十分な抗体を獲得できなかった学生は86名（41.5％）であった。希望者は翌年度追加接種を勧奨しており47名が希望した。

表22. 2014年度 インフルエンザ予防接種

	学年	在籍数	接種数	学年毎接種率	学科毎接種率	接種率
学部	医１	105	42	40.0%	62.2%	596
	医２	123	72	58.5%		
	医３	115	66	57.4%		
	医４	115	68	59.1%		
	医５	110	76	69.1%		
	医６	98	90	91.8%		
	看１	58	23	39.7%	68.4%	
	看２	60	44	73.3%		
	看３	70	55	78.6%		
	看４	78	60	76.9%		
大学院	医修	22	5	22.7%	12.2%	21
	看修	20	5	25.0%		
	博士	130	11	8.5%		
医学部合計		1,104	617	55.9%		

インフルエンザ予防接種は希望者に対し実施している。表22は接種率である。学年が上がるに連れ接種率が上がっているが、臨床実習との関連も考えられる。医学科より看護学科の方が接種率が高い。

表23. 2014年度 ツベルクリン反応検査

	対象数	実数	陰性	弱陽性	中等度	強陽性
１回目	210	182	42	21	101	18
２回目	57	56	9	15	28	5
計	267	238	51	36	129	23

＊２回目検査の対象：１回目検査で陰性、弱陽性、その他指示があった者。

ツベルクリン反応検査については新入生を対象に実施しており、2014年度は延べ238人に実施した。結果は表23に示している。

【喫煙・飲酒・運動習慣】

定期健康診断時の問診票の回答を集計したものである。

【喫煙状況】

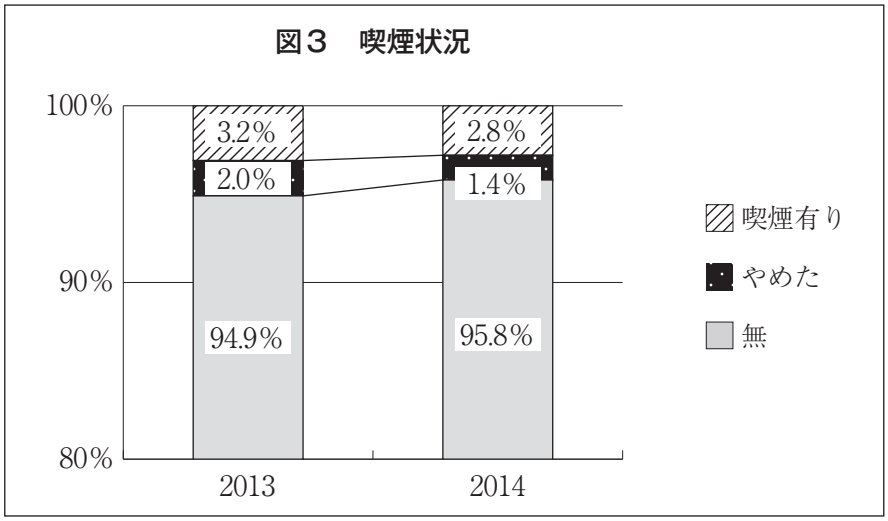


図３は学部生の喫煙状況について示している。喫煙有りは2013年度が3.2%（27名）で2014年度は2.8%（25名）で減少している。2014年度から禁煙無料サポートがスタートしたため、学生にも周知し取り組んでいるところである。

【飲酒習慣】

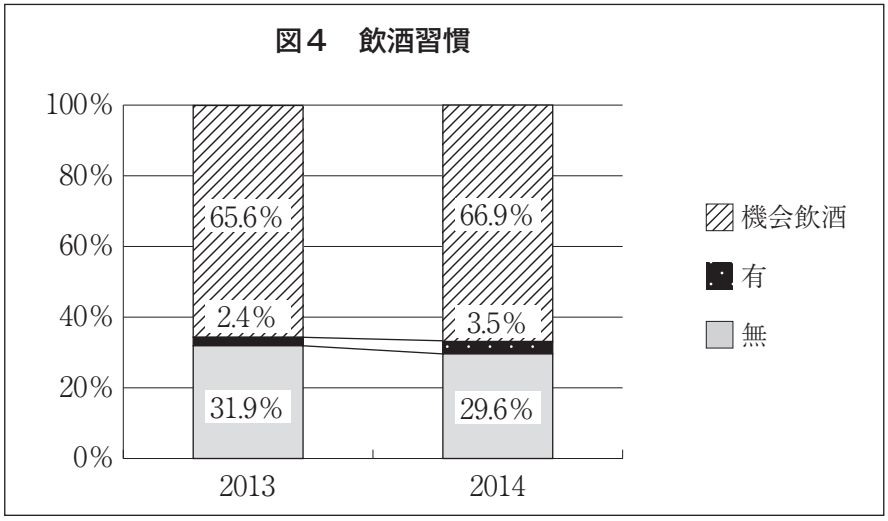


図４は学部生の飲酒習慣を示したものである。機会飲酒の学生が約66%であった。飲酒に関する健康教育は、入学時オリエンテーションで各自アルコール体質判定を行っている。また定期健康診断時にアルハラのパンフレットを配布したり、アルコールにまつわる事故等の情報提供をしている。

【運動習慣】

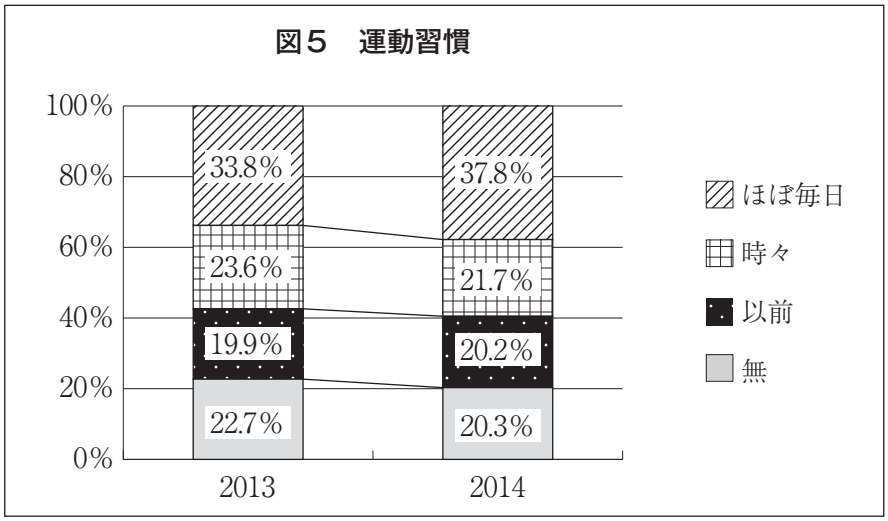


図５は学部生の運動習慣を示している。“時々”や“ほぼ毎日”運動する学生は半数以上おり、大会等を目標に励んでいる様子である。

E. 学内外の教育・広報活動
及び調査研究

大分大学学生の喫煙に関する実態調査と禁煙サポートについて

はじめに

2003年５月に健康増進法が制定され、受動喫煙防止対策として全国の多くの大学において敷地内全面禁煙が実施されている。大分大学は､2007年１月に医学部附属病院と医学部の敷地内(挾間キャンパス）を完全禁煙とし､2011年４月より旦野原キャンパスも敷地内全面禁煙となり「無煙化環境」を構築した。しかし、敷地内にはいまだにタバコの吸殻がポイ捨てされている箇所もみられている。保健管理センターでは、学生に対する今後の禁煙サポートや教育啓発活動に役立てるため学生の喫煙状況について調査し、今後の課題について検討した。

アンケート調査

大分大学学生の喫煙に関する実態を把握し、今後の喫煙防止教育における課題について検討するため、2014年春、旦野原キャンパスの学生を対象にした無記名のアンケート調査を施行した。学生の喫煙率は7.4％(男性11.3％、女性1.3％）であり、学部２年生から３年生にかけて喫煙率が大きく増加していた（表１)。また学部４年生および大学院生の喫煙開始時期は「学部２年生から」がそれぞれ39.8％、35.3％と最多であった（表２）

表１．大分大学旦野原キャンパス学生の喫煙率

	有効回答人数	喫煙率
全学生	3,385名	7.4%
男性	2,065名	11.3%
女性	1,320名	1.3%
学部１年生	927名	0.4%
学部２年生	679名	3.1%
学部３年生	683名	9.4%
学部４年生	771名	14.0%
大学院生	321名	15.9%

表２．学部４年生、大学院生の喫煙開始時期

	学部４年生	大学院生
大学入学前から	16.7%	7.8%
学部１年時から	22.2%	13.7%
学部２年時から	39.8%	35.3%
学部３年時から	18.5%	17.6%
学部４年時から	2.8%	13.7%
大学院から		9.8%
不明		2.0%

喫煙習慣のある男子学生のうち7.3%が受動喫煙をさせない配慮を「あまりしていない」または「全くしていない」と回答した（図１）。一方、非喫煙学生のうち男性44.3%、女性41.7%が大分大学学生の喫煙に伴う受動喫煙で「不快な思いをしたことがある」と回答し（図２）、そのうちの半数以上は「喫煙を止めるよう依頼することができなかった」と回答した（図３）。

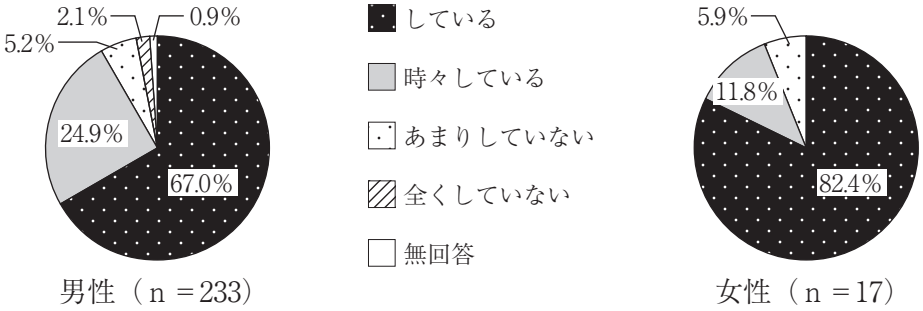


図１　喫煙習慣のある学生が周囲の人に受動喫煙させない配慮をしている割合

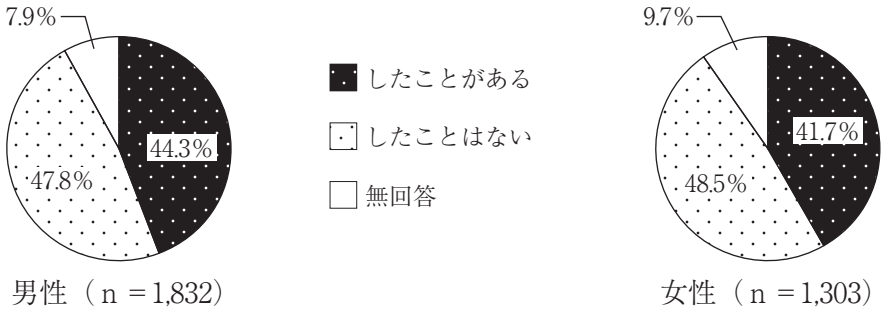


図２　喫煙習慣のない学生の中で大分大学の学生の喫煙に伴う受動喫煙で不快な思いをしたことがある割合

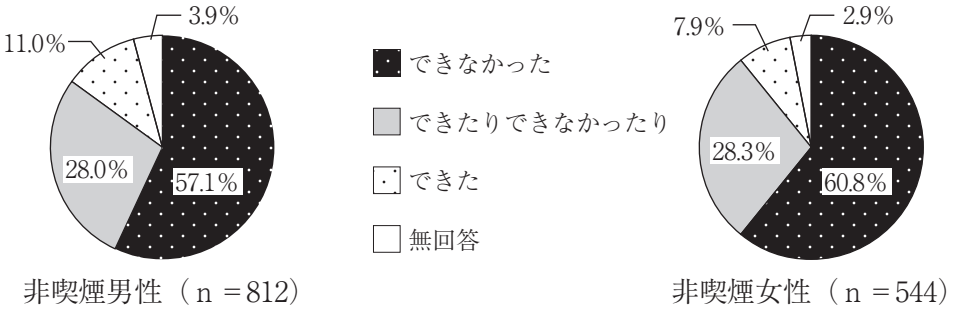


図３　大分大学学生の喫煙に伴う受動喫煙で「不快な思いをしたことがある」と回答した非喫煙学生が、喫煙者に対し喫煙をやめるよう依頼することができた割合

タバコの害に関する知識（表3）については、非喫煙学生よりも喫煙学生の方が上回っていた（表4）。

表３．タバコの害に関する質問

Ｑ１　喫煙をすると、肺がんだけでなく、タバコの煙が直接触れない部位のがん（肝臓がん、すい臓がん、膀胱がんなど）になる確率も高くなることを知っていましたか？

Ｑ２　喫煙は動脈硬化を進行させ、心筋梗塞や脳卒中などの心臓や脳の重大な病気にかかりやすくなることを知っていましたか？

Ｑ３　喫煙をすると、目じりや口周りのしわが増えたり、白髪が増えたりして、老け顔になりやすいことを知っていましたか？

表４．タバコの害に関する知識（表３）について「知っていた」と回答した割合

質問	男性 (n=1,468)	女性 (n=956)	喫煙学生 (n=246)	非喫煙学生 (n=2,178)
Ｑ１	86.4%	79.2%	85.4%	82.9%
Ｑ２	94.0%	87.9%	91.5%	91.1%
Ｑ３	72.8%	63.0%	79.3%	67.3%

喫煙習慣のある学生のうち半数以上が「禁煙したい」と回答した（図４）。

図４　喫煙習慣のある学生の中で「禁煙したい」と思っている学生の割合

以上より

１．喫煙開始時期は学部２年時が最多であることや、喫煙率が学部３年生より大きく増加していることから、学部１～２年時での教育啓発活動が必要。

２．マナーを守れていない一部の喫煙学生による受動喫煙で、多くの非喫煙学生が苦痛を感じている。

３．禁煙指導においてはタバコの害を強調するのみでなく、禁煙補助薬を用いた禁煙サポートを行うことが重要。

と考えられ、保健管理センターでは以下のような取り組みを行った。

教育啓発活動、広報活動

保健管理センター所長による新入学生対象の講演

禁煙外来の「のぼり」を設置

旦野原キャンパス

挾間キャンパス

出張呼気一酸化炭素濃度測定

禁煙外来

2014年９月17日より学長裁量経費にて学生・教職員を対象にニコチンパッチ、ニコチンガムによる無償の禁煙外来を開始し、2014年９月～2015年３月の期間、禁煙外来受診者は学生36名、事務職員９名であった。禁煙治療は29名がニコチンパッチ、16名がニコチンガムで開始し、原則として２週間おきの再来とした。副反応によって保健管理センターでの治療を中止した学生１名を除き、治療終了時から遡って４週間禁煙を達成できた割合は、学生13名（37.1％）、事務職員５名（55.6％）であった。

今後の課題

2013年度までと比較して禁煙外来への来所者が大幅に増加し、2014年度に行った一連の取り組みには一定の効果があったと考えられた。ただし教員の来所者が少ないことや、学生の禁煙成功率が低く「忘年会シーズンに吸ってしまった」「友人の集まりやバイト先で周囲の喫煙者から勧められて吸ってしまった」などの声が聞かれ、特に冬期休業中の失敗例を多数認めたことが今後の課題と考えられた。

参考文献　工藤欣邦、他：大分大学学生の喫煙に関する実態調査と今後の課題．CAMPUS HEALTH 52；89-94：2015

大分大学保健管理センター（2013-2014年度）業績

2013年度

【原著・総説・著書】

Kodama M, Murakami K, Okimoto T, Abe H, Sato R, Ogawa R, Mizukami K, Shiota S, Nakagawa Y, Soma Y, Arita T, Fujioka T. Histological characteristics of gastric mucosa prior to *Helicobacter pylori* eradication may predict gastric cancer. Scand. J. Gastroenterol. 48: 1249-56, 2013.

Fukuta N, Ida K, Kato T, Uedo N, Ando T, Watanabe H, Shimbo T; Study Group for Investigating Endoscopic Diagnosis of Gastric Intestinal Metaplasia President: Kazunori Ida (Gifu); Managers: Mototsugu Kato (Sapporo), Takahiro Kato (Gifu), Sachiyo Nomura (Tokyo), Shuichi Ohara (Sendai), Nobuhiro Sakaki (Tokyo), Takuro Shimbo (Tokyo), Noriya Uedo (Osaka), Naomi Uemura (Tokyo), Hidenobu Watanabe (Niigata); Advisors: Michio Kaminishi (Tokyo), Kazumasa Miki (Tokyo), Saburou Nakazawa (Nagoya), Hirohumi Niwa (Tokyo), Masaharu Tatuta (Osaka); Contributors: Takashi Ando (Kyoto), Masanori Ito (Hiroshima), Kazunari Murakami (Oita), Masaaki Kodama (Oita), Shigemi Nakajima (Ootsu), Hiroyoshi Ota (Matsumoto), Shuichi Terao (Kakogawa), Nobuaki Yagi (Kyoto), Norimasa Yoshida (Kyoto).Endoscopic diagnosis of gastric intestinal metaplasia: a prospective multicenter study. Dig Endosc. 25:526-34, 2013.

Murakami K, Furuta T, Ando T, Nakajima T, Inui Y, Oshima T, Tomita T, Mabe K, Sasaki M, Suganuma T, Nomura H, Satoh K, Hori S, Inoue S, Tomokane T, Kudo M, Inaba T, Take S, Ohkusa T, Yamamoto S, Mizuno S, Kamoshida T, Amagai K, Iwamoto J, Miwa J, Kodama M, Okimoto T, Kato M, Asaka M; For the Japan GAST Study Group. Multi-center randomized controlled study to establish the standard third-line regimen for *Helicobacter pylori* eradication in Japan. J Gastroenterol. 48: 1128-35, 2013.

Mizukami K, Murakami K, Yamauchi M, Matsunari O, Ogawa R, Nakagawa Y, Okimoto T, Kodama M, Fujioka T. Evaluation of selective cyclooxygenase-2 inhibitor-induced small bowel injury: randomized cross-over study compared with loxoprofen in healthy subjects. Dig Endosc. 25: 288-94, 2013.

Shiota S, Murakami K, Okimoto T, Kodama M, Yamaoka Y. Serum *Helicobacter pylori* CagA antibody titer was a useful marker for advanced inflammation in the stomach in Japan. J. Gastroenterol. Hepatol. 29: 67-73, 2013.

Tamura A, Murakami K, Kadota J; OITA-GF Study 2 Investigators (Kodama M et al).
Prevalence of gastroduodenal ulcers/erosions in patients taking low-dose aspirin with either 15 mg/day of lansoprazole or 40 mg/day of famotidine: the OIT-A-GF study 2. BMC Res Notes. 6:116, 2013.

工藤欣邦, 川崎紀則, 藤岡利生. 高齢者医療や介護を中心とした学外診療所実習の事前説明における当院の工夫. 日本プライマリ・ケア連合学会誌 36 : 27-31, 2013.

工藤欣邦, 河野香奈江, 木戸芳香, 兒玉雅明, 藤田長太郎, 塩田星児. 大学生の健診採血時における血管迷走神経反応の発現頻度とその背景因子. CAMPUS HEALTH 50:308-310 2013（第50回全国大学保健管理研究集会報告書）.
工藤欣邦、河野香奈江、木戸芳香、兒玉雅明、藤田長太郎. 大学生のインフルエンザワクチンに関する基礎知識. 第43回九州地区大学保健管理研究協議会報告書51-52, 2013.

木戸芳香、工藤欣邦、河野香奈江、兒玉雅明、藤田長太郎. 大学生に対する咳エチケットの啓発活動と浸透度. 第43回九州地区大学保健管理研究協議会報告書53-54, 2013.

兒玉雅明、村上和成、沖本忠義、藤岡利生. *H. pylori*除菌後に発見される胃癌―その特徴と対策. 消化器の臨床. 16: 393-399, 2013.

兒玉雅明、村上和成、沖本忠義、藤岡利生. *H. pylori*除菌後胃癌における背景非胃癌部胃粘膜の変化. 消化器内科. 57: 131-136, 2013.

兒玉雅明、村上和成、沖本忠義、藤岡利生. *H. pylori*感染症関連疾患と除菌治療の意義. 慢性胃炎. 日本臨床. 71: 1442-1448, 2013.

兒玉雅明、村上和成、沖本忠義、藤岡利生. 除菌後の組織学的胃炎の長期の変化. 日本ヘリコバクター学会誌. 15: 30-37, 2013.

兒玉雅明、沖本忠義、村上和成. ピロリ菌除菌で腸上皮化生、萎縮は改善するか. 消化器内視鏡 25: 1968-1974, 2013.

村上和成、沖本忠義、兒玉雅明、水上一弘、小川竜、中川善文、藤岡利生. 高い除菌率をどうやって維持していくのか？ Helicobacter Res. 17: 207-210, 2013.

棚橋仁、沖本忠義、兒玉雅明、村上和成、藤岡利生. 内視鏡的胆道ドレナージで治療したセフトリアキソンによる胆嚢・総胆管偽結石の 1 例. 日本消化器内視鏡学会雑誌.55:3594-7, 2013.

兒玉雅明、藤岡利生. *H. pylori*感染症. 内科学（矢崎義雄総編）第10版, 朝倉書店, 東京, 2013.

【学会・研究集会発表（筆頭演者が保健管理センター教職員のみ）】

工藤欣邦、河野香奈江、木戸芳香、兒玉雅明、藤田長太郎. 大学生のインフルエンザワクチンに関する基礎知識. 第43回九州地区大学保健管理研究協議会2013.8. 那覇市

木戸芳香、工藤欣邦、河野香奈江、兒玉雅明、藤田長太郎. 大学生に対する咳エチケットの啓発活動と浸透度. 第43回九州地区大学保健管理研究協議会2013.8. 那覇市

工藤欣邦、河野香奈江、木戸芳香、兒玉雅明、藤田長太郎. 大学生におけるインフルエンザ対策の励行状況. 第51回全国大学保健管理研究集会 2013.11. 岐阜市.

兒玉雅明、村上和成、藤岡利生. *H. pylori*除菌前後での内視鏡的胃粘膜萎縮と組織学的萎縮・腸上皮化生との相関に関する検討. 第85回日本消化器内視鏡学会総会. 2013.5. 京都.（ワークショップ）

兒玉雅明、阿部寿徳、村上和成. *H. pylori*除菌時における除菌後発見胃癌の危険因子の解析. 第99回日本消化器病学会総会2013.3. 鹿児島.（シンポジウム）

兒玉雅明, 村上和成, 沖本忠義, 塩田星児, 松成修, 綿田雅秀, 中川善文, 藤岡利生. H. pylori除菌後発見胃癌例における血清抗CagA抗体価の推移. 第19回日本ヘリコバクター学会学術集会 2013.6.; 長崎市（ポスター）

兒玉雅明, 村上和成, 沖本忠義, 塩田星児, 小川竜, 山内美佳, 平下有香, 松成修, 綿田雅秀,水上一弘, 中川善文, 藤岡利生. H.pylori除菌後胃癌症例における除菌後血清抗CagA抗体価の推移. 第55回日本消化器病学会大会 2013. 10. 東京都（ポスター）

【その他】
藤田長太郎：うつ病. 広報誌BUNDAI OITA 37:18, 2013.
河野香奈江：入試対策特集 入試直前！勝つための体調管理Q＆A 広報誌BUNDAI OITA 39:11-12, 2013.
兒玉雅明:予防できるヘリコバクターピロリ感染. 広報誌BUNDAI OITA 39:18, 2013.

【学内・外講演会等】
工藤欣邦
教育福祉科学部，経済学部，工学部　新入生ガイダンス 2013.4.5
教育福祉科学部基礎ゼミ「健康な学生生活を送るためのアドバイス」2013.5.15と 5.22
経済学部基礎ゼミ「大学生活における健康面からのアドバイス」2013.5.29
ハラスメント防止教育講演会「タバコによる害とスモーキングハラスメント」2013.6.5
大分県立看護科学大学　学生初期体験実習「大学生活における健康管理面からのアドバイス」「産業医の業務」2013.7.10と7.12
2013年度教員免許状更新講習「小児感染症・インフルエンザ・ノロウイルスについて」2013.8.2
旦野原キャンパス教職員対象健康セミナー「健診結果の見方と生活習慣病」2013.8.8と8.19
医学部医学科講義「症候学腹痛」2014.2.20

2014年度
【原著・総説・著書】
Inoue K, Ozaka S, Okamoto K, Ogawa R, Mizukami K, Okimoto T, Kodama M, Kobayashi T, Eshita Y, Hasegawa H, Murakami K. Multiple infections with helminths--whipworm, hookworm, and roundworm. Endoscopy. 2014;46 Suppl 1 UCTN:E117-8.

工藤欣邦, 河野香奈江, 木戸芳香, 兒玉雅明, 藤田長太郎：大学生のインフルエンザ感染予防対策の励行状況と啓発活動の必要性. 日本プライマリ・ケア連合学会誌 37: 281-284, 2014.

工藤欣邦、河野香奈江、木戸芳香、兒玉雅明、藤田長太郎. 大分大学学生のインフルエンザワクチンに関する基礎知識. CAMPUS HEALTH 51: 139-144, 2014.

工藤欣邦、木戸芳香、河野香奈江、兒玉雅明、藤田長太郎. 大学生における咳エチケットの認識度と啓発活動. CAMPUS HEALTH 51: 145-150, 2014.

工藤欣邦, 河野香奈江, 木戸芳香, 兒玉雅明, 藤田長太郎：大学生におけるインフルエンザ対策の励行状況. CAMPUS HEALTH 51(1): 222, 2014（第51回全国大学保健管理研究集会報告書）.

河野香奈江、工藤欣邦、木戸芳香、兒玉雅明、堤隆.　学生と教職員の薬に関する知識と啓発活動の必要性. 第44回九州地区大学保健管理研究協議会報告書61-62, 2014.

兒玉雅明、沖本忠義、阿部寿徳、小川竜、水上一弘、岡本和久、相馬　渉、有田桂子、有田　毅、村上和成. 特集：早期胃癌を視る、観る、診る *Helicobacter pylori*除菌後の注意すべき胃粘膜. 消化器内視鏡 26: 1140-7, 2014.

兒玉雅明、沖本忠義、村上和成. 胃炎診療は変化したか？ Helicobacter Res. 18: 320-325, 2014.

兒玉雅明、村上和成. *Helicobacter pylori*除菌治療クエスチョン＆アドバイス－専門医に聞く*H. pylori*除菌診療のポイント- 現在一次、二次除菌療法以外にどのような治療法がありますか？ Helicobacter Res. 18: 287-290, 2014.

兒玉雅明、沖本忠義、阿部寿徳、小川竜、有田毅、村上和成. Helicobacter pylori除菌時点における除菌後発見胃癌予測因子. Helicobacter Res. 18: 391-395, 2014.

古田隆久、井上和彦、兒玉雅明、村上和成. H.pylori除菌成功とそれに伴う胃炎改善マーカーとしての血清ペプシノゲン. 医学と薬学. 72: 67-72, 2014.

沖本忠義、兒玉雅明、村上和成. *H. pylori*除菌療法による短期・長期的副作用とその対策. 臨床消化器内科. 29: 295-303, 2014.
沖本忠義、兒玉雅明、村上和成. 薬剤耐性菌と三次除菌. Helicobacter Res. 18: 153-157, 2014.
沖本忠義、兒玉雅明、村上和成. 臨床研究におけるH.pylori除菌効果と胃癌発生抑制効果. 胃癌リスクファクターとリスク診断, 日本メディカルセンター, Page181-187, 2014

【学会・研究集会発表（筆頭演者が保健管理センター教職員のみ）】
河野香奈江, 工藤欣邦, 木戸芳香, 兒玉雅明, 堤隆：学生および教職員の薬に関する知識と啓発活動の必要性. 第44回九州地区大学保健管理協議会 2014.8. 北九州市.

木戸芳香, 工藤欣邦, 河野香奈江, 兒玉雅明, 堤隆：大分大学学生の喫煙に関する実態調査. 第52回全国大学保健管理研究集会2012.9. 東京都.

兒玉雅明、沖本忠義、阿部寿徳、小川　竜、水上一弘、中川義文、有田　毅、村上和成. *H. pylori* 除菌後の胃粘膜変化と除菌時OLGA systemを用いた胃癌危険因子の解析. 第86回日本胃癌学会総会. 2014; 3. 横浜市（パネルディスカッション）

兒玉雅明、沖本忠義、村上和成. Operative Link for Gastritis Assessment (OLGA) systemを用いた *Helicobacter pylori* 除菌後発見胃癌と慢性炎症の関連. 第100回日本消化器病学会総会. 2014. 4 東京都（シンポジウム）

兒玉雅明、沖本忠義、村上和成. *Helicobacter pylori* 除菌前胃癌と除菌後発見胃癌の形態学的および細胞動態的差異の検討. 第87回日本消化器内視鏡学会総会　2014.5. 福岡市（ワークショップ）

兒玉雅明、沖本忠義、阿部寿徳、小川竜、有田毅、村上和成. OLGAおよびOLGIM　systemによるH.pylori除菌後の胃癌予測への有用性検討. 第20回日本ヘリコバクター学会学術集会 2014.6 東京（一般演題）

兒玉雅明、沖本忠義、小川竜、水上一弘、八坂成暁、村上和成. Helicobacter pylori除菌後10年間の観察による胃粘膜および慢性胃炎像変化の解析. 第103回日本消化器病学会九州支部例会. 2014.7. アクロス福岡, 福岡市（シンポジウム）

【その他】
工藤欣邦：ほけかんだより「医療機関の上手なかかり方」広報誌BUNDAI OITA 40:18, 2014
河野香奈江：ブンダイ入試対策Special 100%の力を発揮できる「体」と「心」の準備　広報誌BUNDAI OITA 40:11-12, 2014
吉松靖子, 木戸芳香, 河野香奈江：ほけかんだより「シリーズ２月経不順」広報誌BUNDAI OITA 41:18, 2014
工藤欣邦：ほけかんだより「大学における真の禁煙達成に向けて」. 広報誌BUNDAI OITA 42:19-20,2014

【学内・外講演会等】
工藤欣邦
教育福祉科学部，経済学部，工学部　新入生ガイダンス 2014.4.5
2014年度前期全学共通科目「分大キャンパスライフ」学生生活への準備Ⅰ講義 2014.4.16
教育福祉科学部基礎ゼミ「健康な学生生活を送るためのアドバイス」2014.5.21および 5.28
経済学部基礎ゼミ「タバコは絶対やめよう，感染症を理解しよう」2014.5.28
ハラスメント防止教育講演会「大切な人をたばこから守ろう」2014.6.4
工学部教職員対象の講演「正しい知識で禁煙実現」2014.6.11
大分県立看護科学大学　学生初期体験実習「キャンパスライフにおける健康管理」「産業医の業務」2014.7.16と7.18
財務部健康セミナー「今から間に合う生活習慣病対策」2014.7.23
2014年度教員免許状更新講習「学校で問題となることの多い主たる学校感染症」2014.8.1
経済学部学生対象講演「アルコールの正しい知識を持って行動しよう」2014.8.7
学生対象「甘くみてはいけない熱中症　予防と対処法」2014.8.29 と9.1
財務部健康セミナー「今からでも間に合う生活習慣病対策」2014.9.9
2014年度AED講習会「救命処置とAEDの使用法・熱中症対策」2014.9.14
工学部1年生対象「タバコとアルコールの害」2014.10.15と10.22
大分県立看護科学大学NPコース 老年診察診断学「腹部および肛門・直腸疾患とその主要症状の診かたならびに検査所見の解釈」2014.10.23
大分県立看護科学大学老年NP疾病持論「消化器系の病気と症状・治療」2014.11.5
教育福祉科学部教員対象講演「正しい知識で禁煙実現」2014.12.10
マネージメントセミナー「長時間労働による健康障害と対策」2015.2.2
医学部医学科イントロダクトリーⅢ 症候学「腹痛の症候学」2015.2.20

堤隆
健康とメンタルヘルス. 大分大学教育福祉科学部基礎ゼミ. 学内 2014. 5. 21
健康とメンタルヘルス. 大分大学教育福祉科学部基礎ゼミ. 学内 2014. 5. 28
健康とメンタルヘルス. 大分大学経済学部基礎演習. 学内 2014. 5. 28
しまいさせまいアルコールハラスメント. 大分大学ハラスメント防止教育講演会. 学内 2014. 6. 4
健康とメンタルヘルス. 大分県立看護科学大学学生初期体験実習. 学内 2014. 7. 16
学校における精神医学. 2014年度教員免許状更新講習. 大分市 2014. 8. 1
メンタルヘルス. 2014年度九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修. 大分市2014. 9. 10

【学内外の委員会活動】
工藤欣邦
＜所属学会・研究会＞
日本内科学会（認定内科医、認定総合内科専門医）、日本消化器病学会（認定消化器病専門医）、日本消化器内視鏡学会（認定消化器内視鏡専門医）、日本学校保健学会, 日本禁煙学会, 日本禁煙科学会, 日本プライマリ・ケア連合学会、日本医学教育学会、日本肝臓学会、GERD研究会、日本医師会認定産業医
＜学外各種委員＞
公益社団法人全国大学保健管理協会評議員 ，全国大学保健管理協会 機関誌CAMPUS HEALTH編集委員，全国大学保健管理協会九州地方部会幹事，国立大学法人保健管理施設協議会会員, 日本プライマリ・ケア連合学会査読委員
＜学内各種委員＞
保健管理センター運営委員会（委員長），メンタルヘルス専門委員会（委員長），保健管理センター研究倫理審査委員会（委員長），安全衛生管理委員会委員, 旦野原キャンパス衛生委員会委員，旦野原キャンパス産業医,イコール・パートナーシップ委員会委員，身体等に障がいのある学生の支援委員会委員，遺伝子組み換え実験安全委員会委員，学内共同教育研究施設等管理委員会委員，運営会議委員，男女共同参画推進本部会議委員，放射線安全管理委員会委員，予算委員会委員，無煙環境推進士隊
＜教育＞
医学一般Ⅰ, 医学一般, 人体の構造と機能及び疾病
大分県立看護科学大学非常勤講師

堤隆
＜所属学会＞
日本精神神経学会（日本精神神経学会認定専門医・指導医）、日本老年精神医学会（日本老年精神医学会専門医・指導医）、総合病院精神医学会（日本総合病院精神医学会専門医・専門医指導医）、日本生物学的精神医学会、九州精神神経学会、精神保健指定医、日本医師会認定産業医、臨床研修指導医
＜学外各種委員＞
九州精神神経学会評議員、九州神経精神医学編集委員
＜学内各種委員＞
安全衛生管理委員会委員，王子地区衛生委員会委員，王子キャンパス産業医，メンタルヘルス専門委員会委員，学生支援部門会議委員, 食堂新築ワーキンググループ会議委員, 大分大学保健管理センター研究倫理審査委員会委員，旦野原ぴあROOM連絡会委員，ハラスメント相談員
＜教育＞
精神保健学I、精神保健、精神保健学Ⅱ、精神医学特論、精神医学、精神医学Ⅱ

兒玉雅明

＜所属学会＞
日本内科学会（認定内科医）、日本消化器病学会（専門医・指導医）、日本消化器内視鏡学会（専門医・指導医）、日本ヘリコバクター学会（H. pylori感染症認定医）、日本消化管学会、日本プライマリ・ケア連合学会、日本医師会認定産業医
＜学会評議員＞
日本消化器病学会評議員、日本消化器内視鏡学会学術評議員、日本消化器病学会九州支部評議員、日本消化器内視鏡学会九州支部評議員

国立大学法人　大　分　大　学

保健管理センター年報

2013～2014年度

2015年11月発行

編集・発行　大分大学保健管理センター
〒870-1192　大分市大字旦野原700番地
TEL 097-554-7476（ダイヤルイン）
FAX 097-554-7479
e-mail : fukuriss@oita-u.ac.jp

挾間健康相談室
〒870-5593　由布市挾間町医大ヶ丘1-1
TEL/FAX 097-586-5552

印刷　株式会社　大分出版印刷